

次期計画策定にあたってのアンケート結果（概要）

○調査の目的 文化芸術に関する県民の関心、要望、意向などをとらえ、次期計画策定のための基礎資料とする

○調査期間 令和8年1月末～2月中旬

○調査対象

1. 県民向けアンケート（P1～P28）

調査対象：県内に居住する満18歳以上の男女 1,200人

抽出方法：人口比例按分で男女別、世代別に抽出

回収数：374人（回収率 31.2%）

2. 文化芸術団体向けアンケート（P29～31）

調査対象：県内の文化芸術団体 221団体

抽出方法：全県的に活動する団体や、県に対して文化芸術行事の後援名義使用を申請し、承認した実績のある団体から抽出

回収数：146団体（回収率 66.1%）

3. 企業向けアンケート（P32,33）

調査対象：県内企業 110社

抽出方法：業種・従業員規模に応じ抽出

回収数：48社（回収率 43.6%）

4. 市町村向けアンケート（P34,35）

調査対象：県内 15市町村

回収数：15（回収率 100%）

文化に関する県民アンケート調査（概要版）

（１）調査の目的

新たな県民文化計画の策定に向け、県民の文化に関する意識や活動の状況、文化振興施策に対するニーズを把握し、富山県の文化行政の推進のための参考資料とするもの。

（２）調査の項目

- ・文化芸術の鑑賞、活動の状況
- ・文化振興施策に関する要望
- ・県内の誇れる文化資源 など 27 問

（３）調査対象

県内に居住する満 18 歳以上の男女 1,200 名

（４）調査方法

郵送により調査票を発送し、紙と電子で回答を受付。

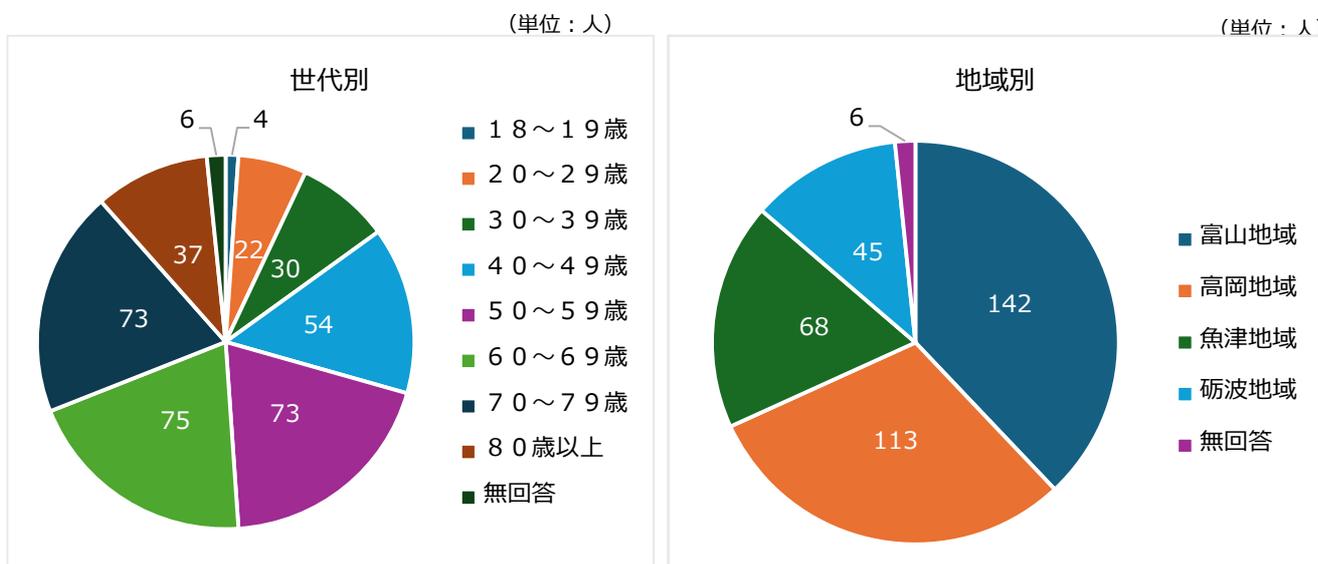
（５）調査機関

令和 8 年 1 月末から 2 月中旬まで

（６）回収数

374 人（回収率 31.2%）

（７）回答者の属性



(8) 調査の結果

■ 1. 文化芸術の鑑賞について

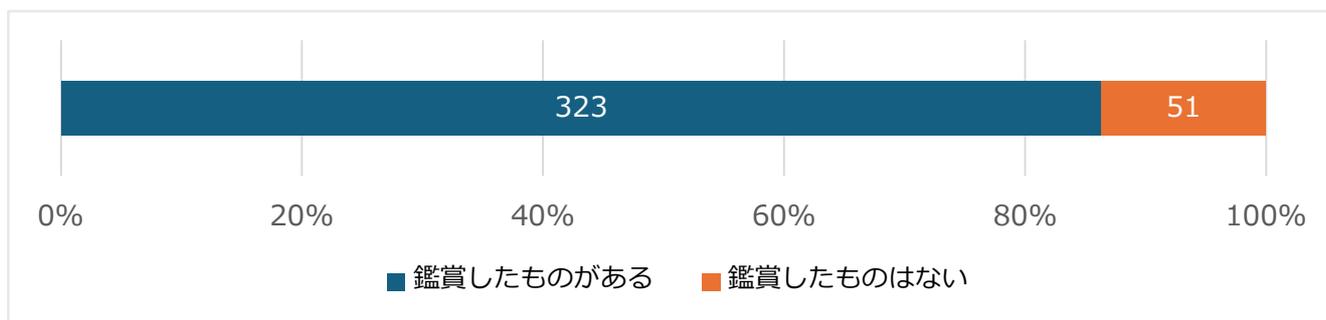
①-1：この1年間に、鑑賞した文化芸術の有無（公演・展覧会など）

※複数選択：いくつでも

<全世代合計>

この1年間に鑑賞した文化芸術について聞いたところ、「鑑賞したものがある」と回答したのは323人(86.4%)となった。

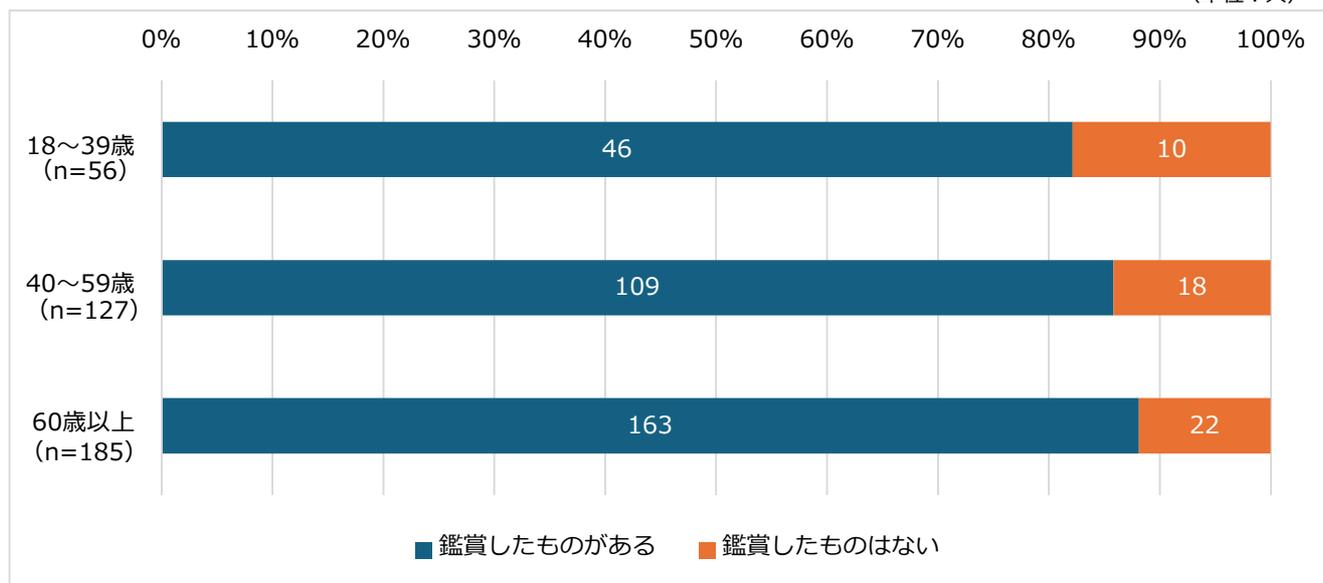
(単位：人)



<世代別>

世代別に見ると、年齢層が上がるにつれ鑑賞したものがあると回答した人の割合は増えているが、全体の傾向は全世代合計と同様だった。

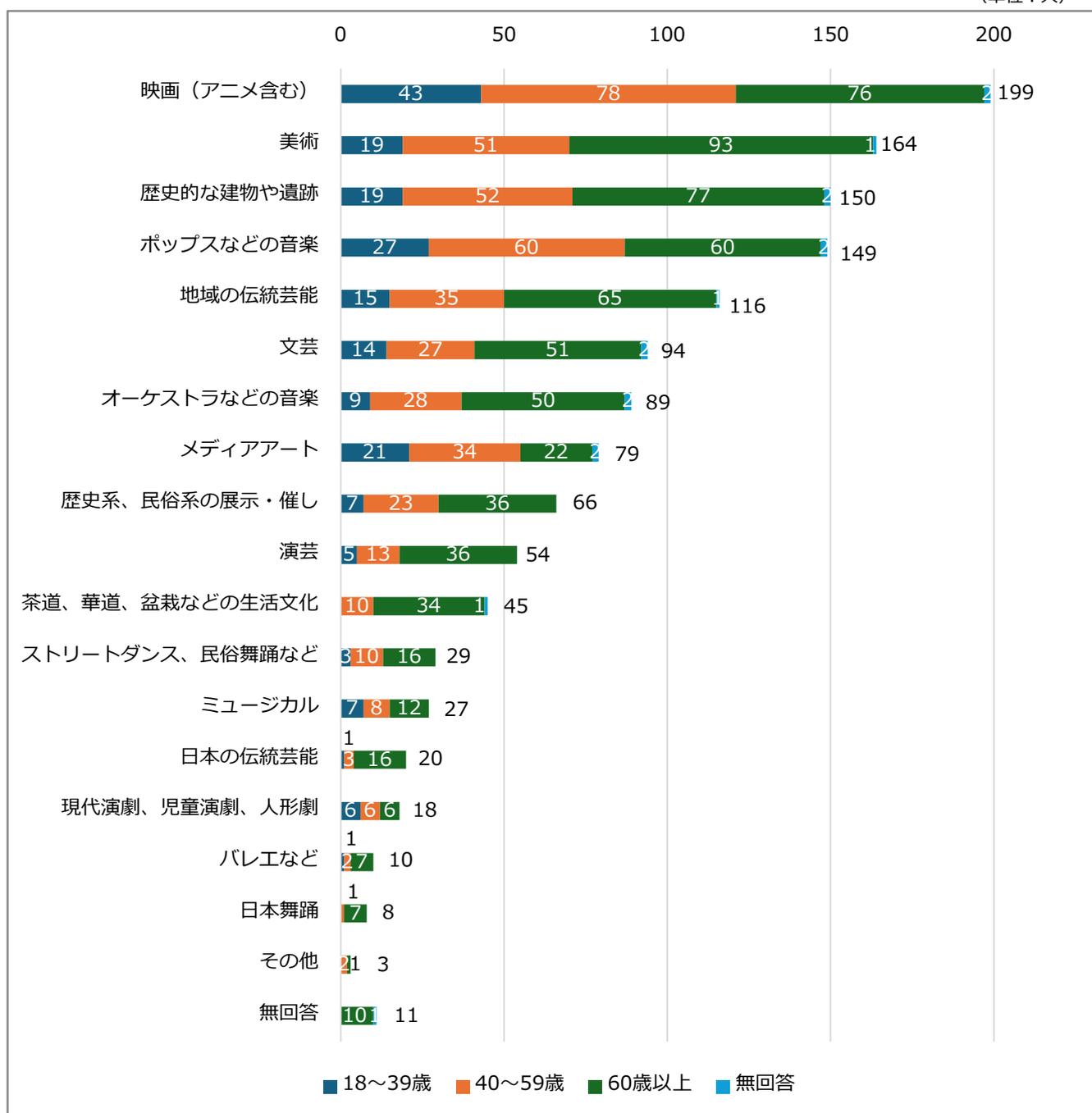
(単位：人)



①-2：この1年間に、鑑賞した文化芸術の分野

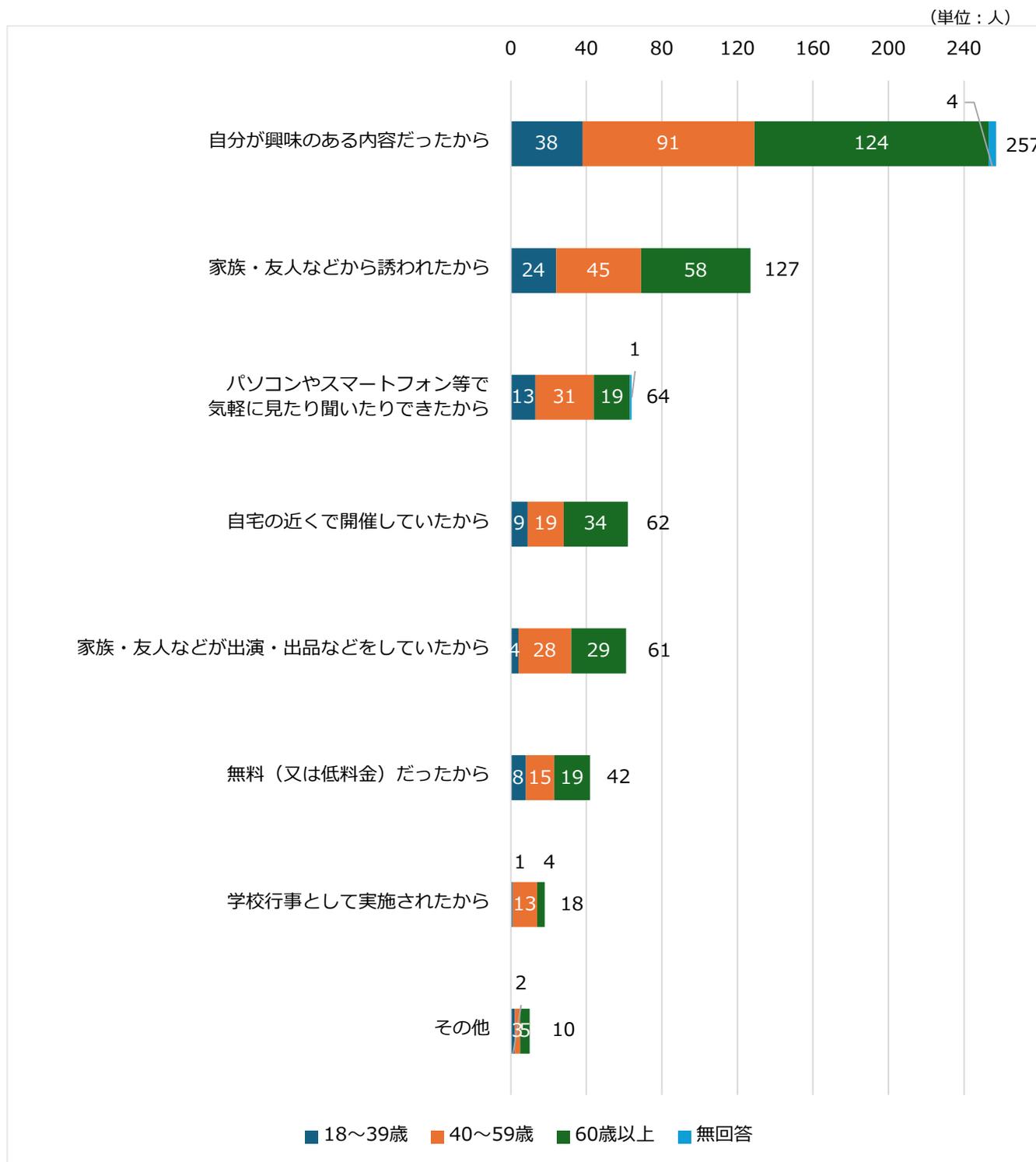
この1年間に文化芸術を鑑賞したと回答した323人を対象に鑑賞した分野を聞いたところ、「映画(アニメ含む)」199人(61.6%)が最も高く、以下、「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、建築、服飾、手芸、工作など)」164人(50.8%)、「歴史的な建物や遺跡(建造物(社寺・城郭など)、名勝地(庭園など)の文化財)」150人(46.4%)と続いた。

(単位：人)



②：文化芸術を鑑賞した理由 ※複数選択：いくつでも

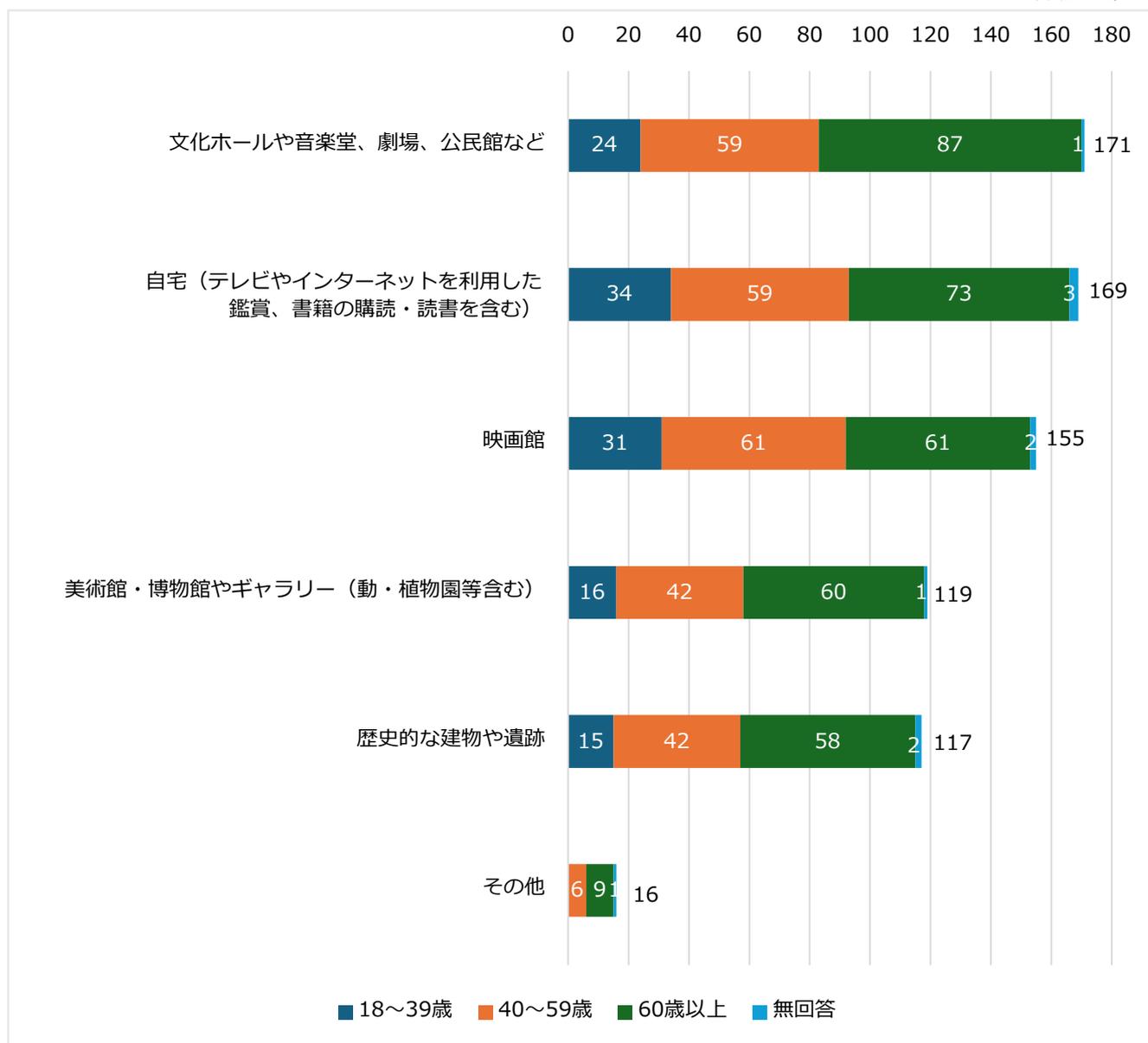
この1年間に文化芸術を鑑賞したと回答した323人を対象にその理由を聞いたところ、「自分が興味のある内容だったから」が257人(79.6%)と最も多く、「家族・友人などから誘われたから」127人(39.3%)、「パソコンやスマートフォン等で気軽に見たり聞いたりできたから」64人(19.8%)と続いた。



③：文化芸術の鑑賞場所 ※複数選択：いくつでも

この1年間に文化芸術を鑑賞したと回答した323人を対象に鑑賞した場所を聞いたところ、「文化ホールや音楽堂、劇場、公民館など」が171人(52.9%)と最も多く、以下「自宅（テレビやインターネットを利用した鑑賞、書籍の購読・読書を含む）」が169人(52.3%)、「映画館」155人(48.0%)と続いた。

(単位：人)



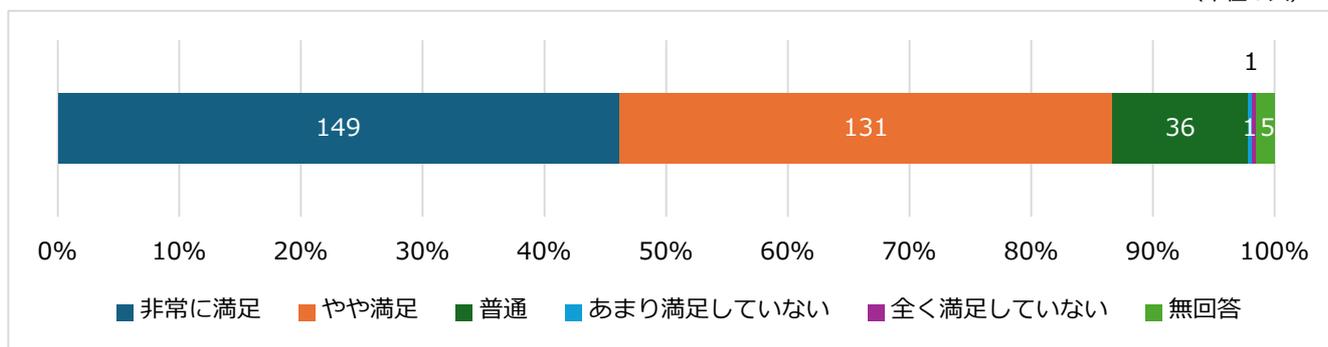
④：文化芸術の満足度

<全世代合計>

この1年間に文化芸術を鑑賞したと回答した323人を対象に満足度を聞いたところ、「非常に満足」149人(46.1%)、「やや満足」131人(40.6%)の順に多く、「満足できた」と回答した割合は280人(86.7%)となった。

「満足した」催しとして、「コンサート、ライブ」(13件)や「映画」(8件)といった回答が多かった。

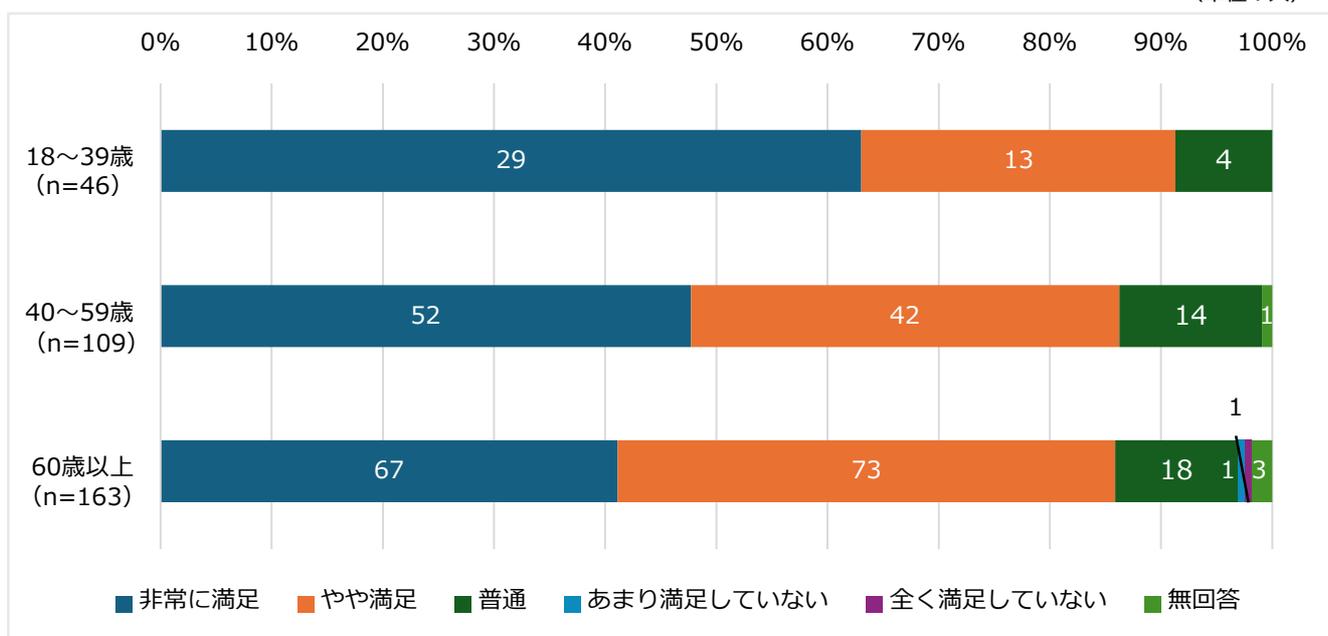
(単位：人)



<世代別>

世代別に見ると、「非常に満足」と回答した割合は若い世代ほど高くなっているが、「満足できた」と回答した割合の傾向は全世代合計と同様だった。

(単位：人)

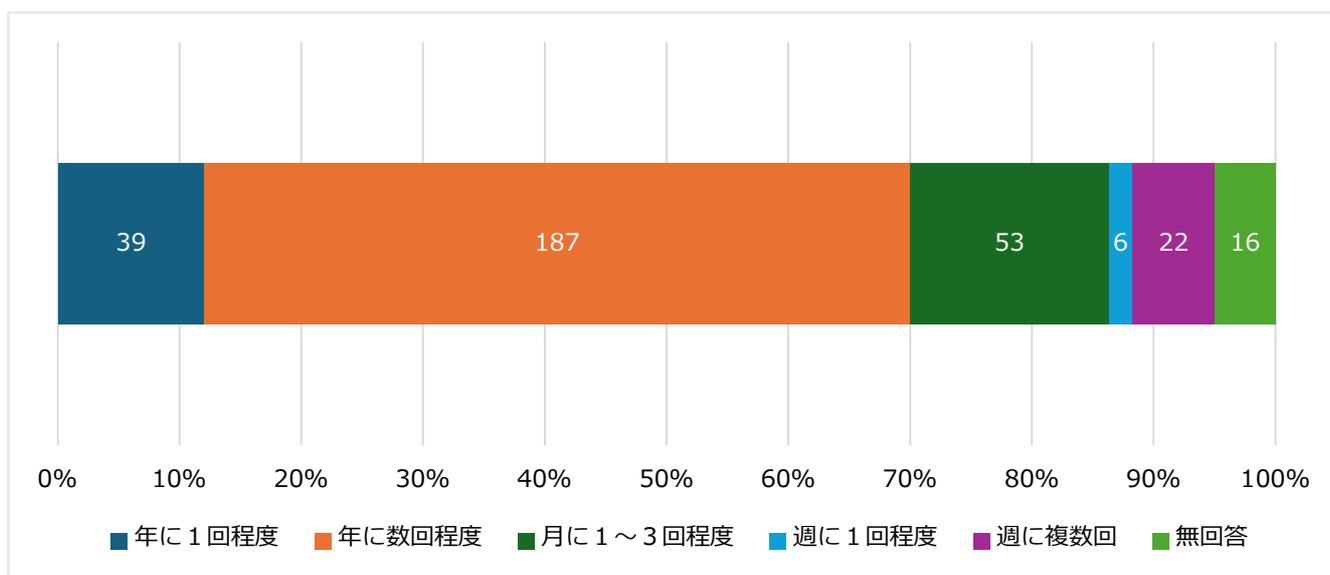


⑤：文化芸術の鑑賞頻度

<全世代合計>

この1年間に文化芸術を鑑賞したと回答した323人を対象に鑑賞頻度を聞いたところ、「年に数回程度」が187人（57.9%）最も多く、次いで「月に1～3回程度」53人（16.4%）、「年に1回程度」39人（12.1%）となった。

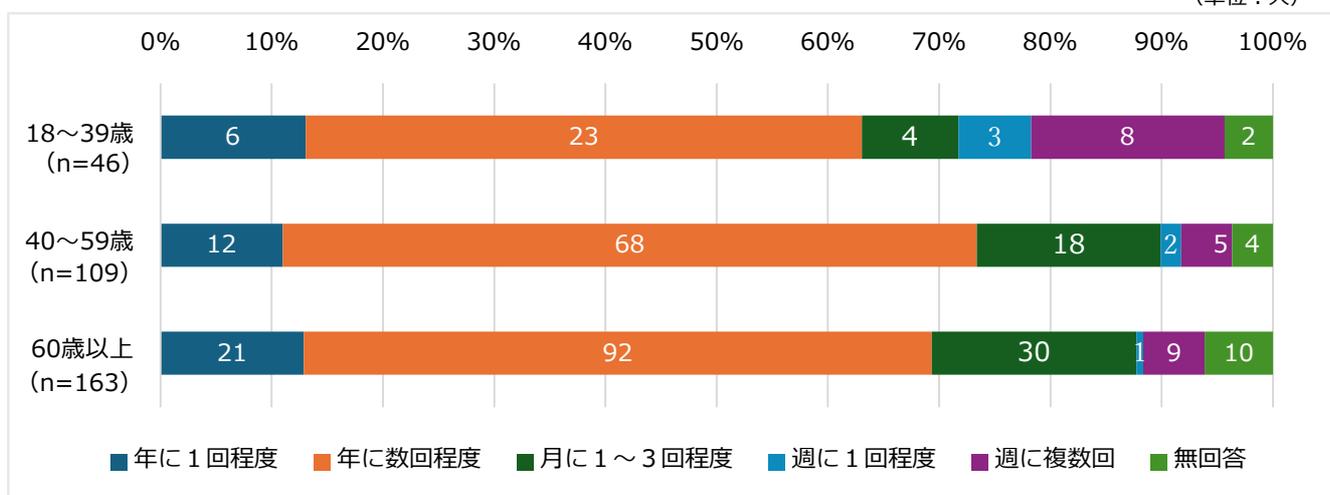
（単位：人）



<世代別>

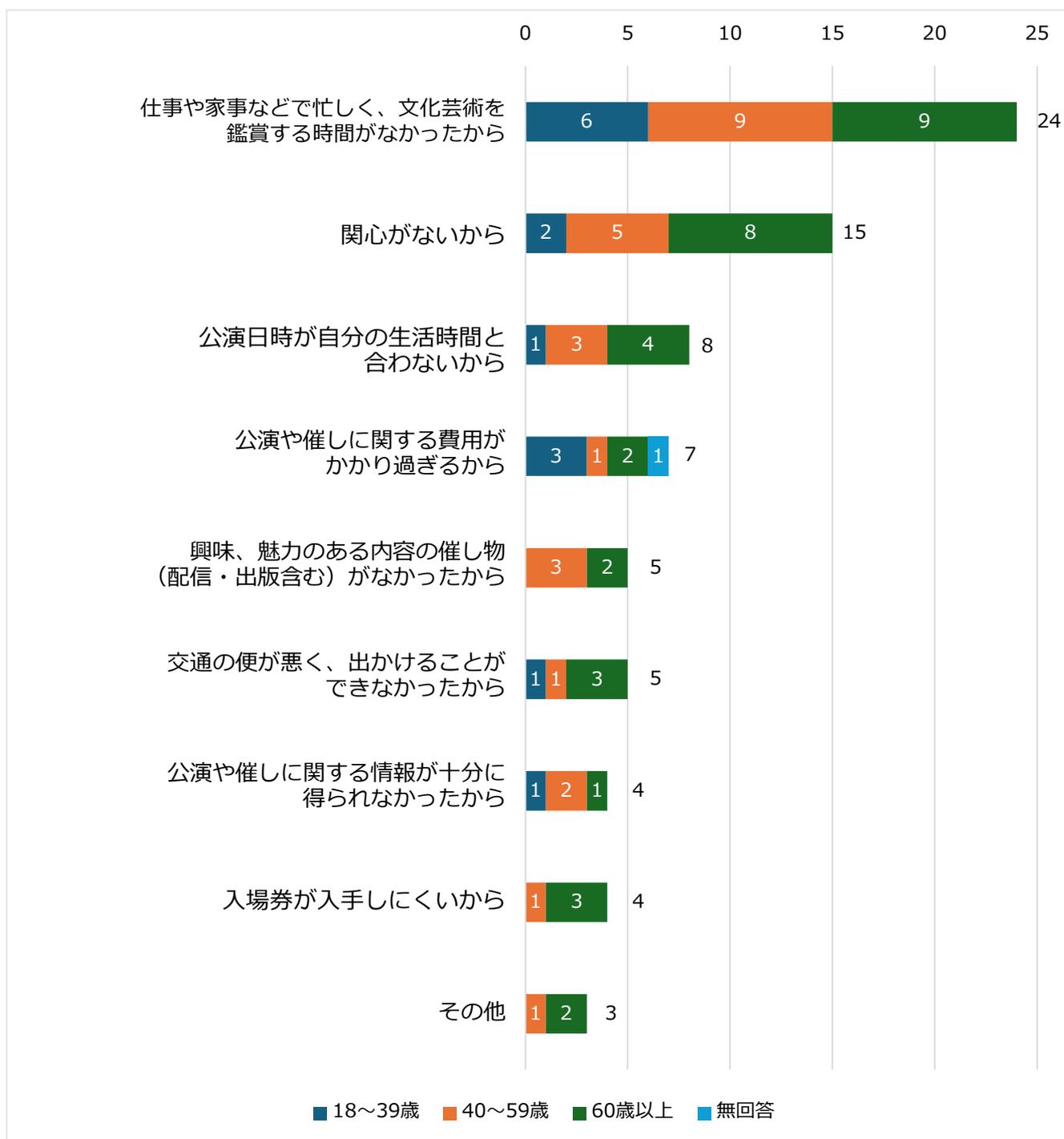
世代別に見ると、18～39歳で「月1～3回程度以上」の頻度の割合が高くなっているが、どの世代でも「年に数回程度」が最も多く、回答の傾向は全世代合計と同様だった。

（単位：人）



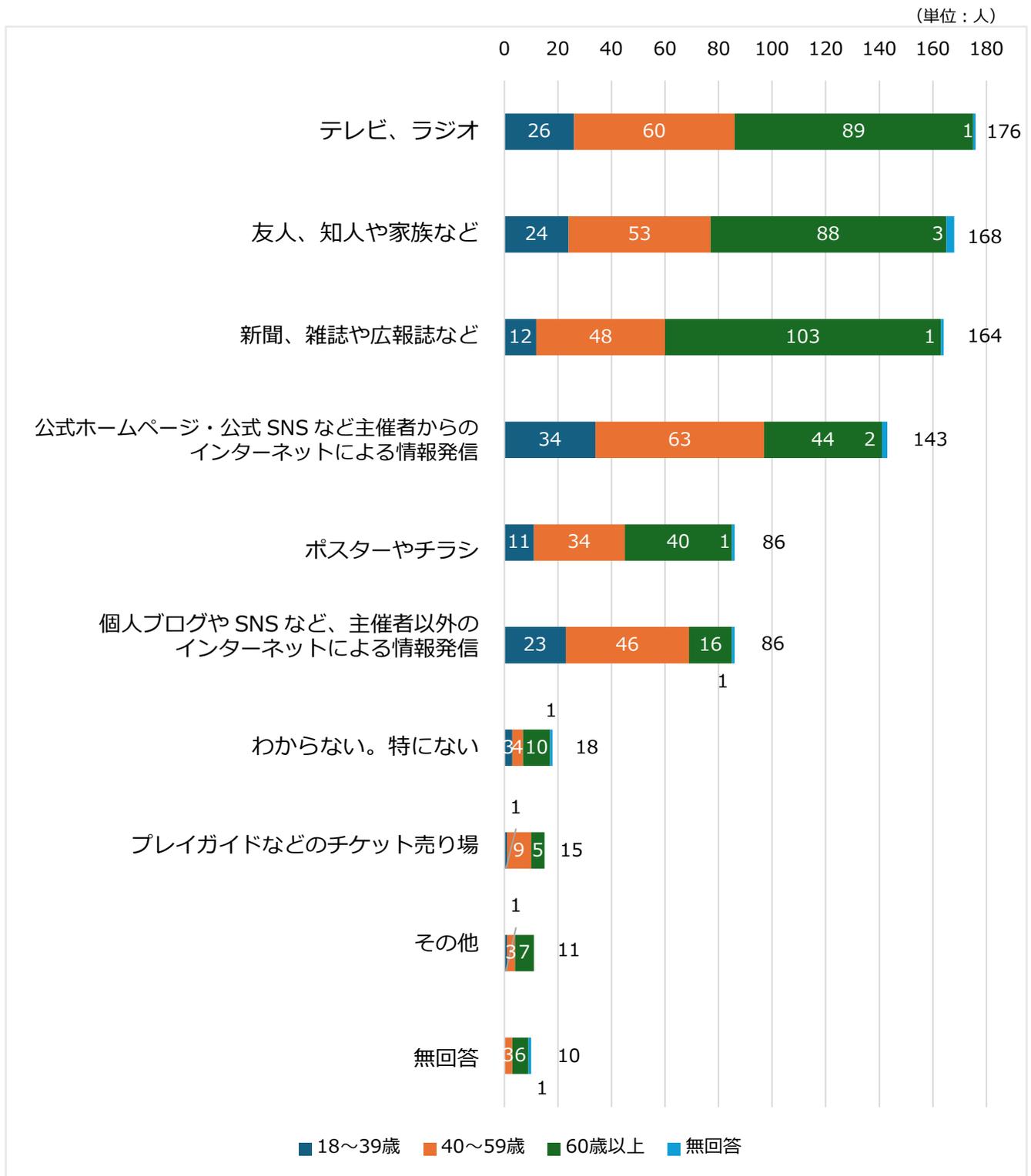
⑥：文化芸術を鑑賞しなかった理由 ※複数選択：いくつでも

この1年間に文化芸術を鑑賞しなかったと回答した51人を対象にその理由を聞いたところ、「仕事や家事などで忙しく、文化芸術を鑑賞する時間がなかったから」が24人（47.1%）と最も多く、「関心がない」15人（29.4%）と続いた。
 (単位：人)



⑦：文化芸術の鑑賞に関する情報の入手元 ※複数選択：いくつでも

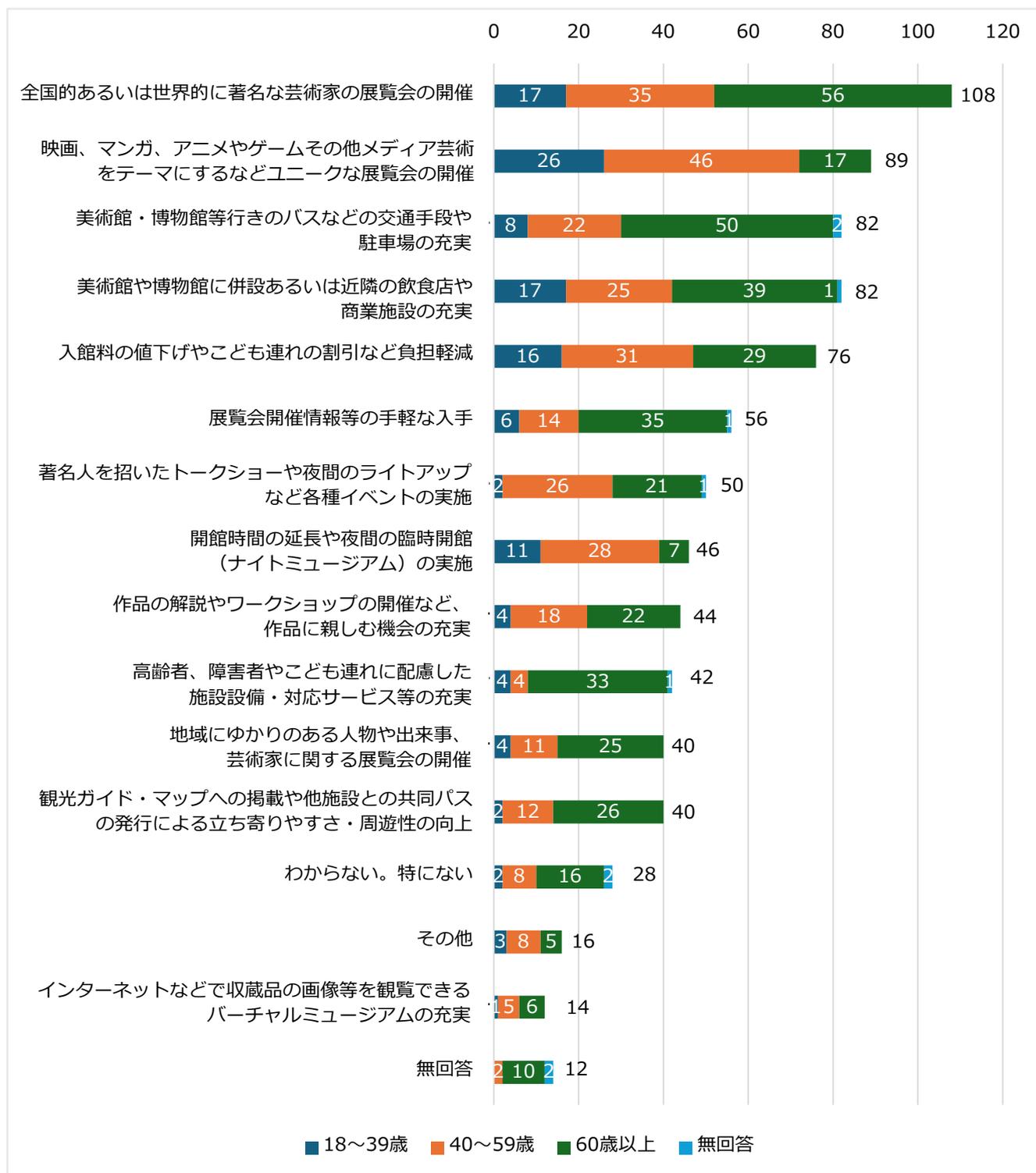
「テレビ、ラジオ」と回答した方が176人（47.1%）と最も多く、次いで「友人、知人や家族など」168人（44.9%）、「新聞、雑誌や広報誌など」164人（43.9%）となった。



⑧：今後どうなれば美術館や博物館等にもっと行きたいと思うか ※複数選択：3つまで

今後どうなれば美術館や博物館等にもっと行きたいと思うかと聞いたところ、「全国的あるいは世界的に著名な芸術家の展覧会の開催」が108人（28.9%）と最も多く、「映画、マンガ、アニメやゲームその他メディア芸術をテーマにするなどユニークな展覧会の開催」89人（23.8%）と次いだ。

（単位：人）



■ 2. 文化芸術活動について

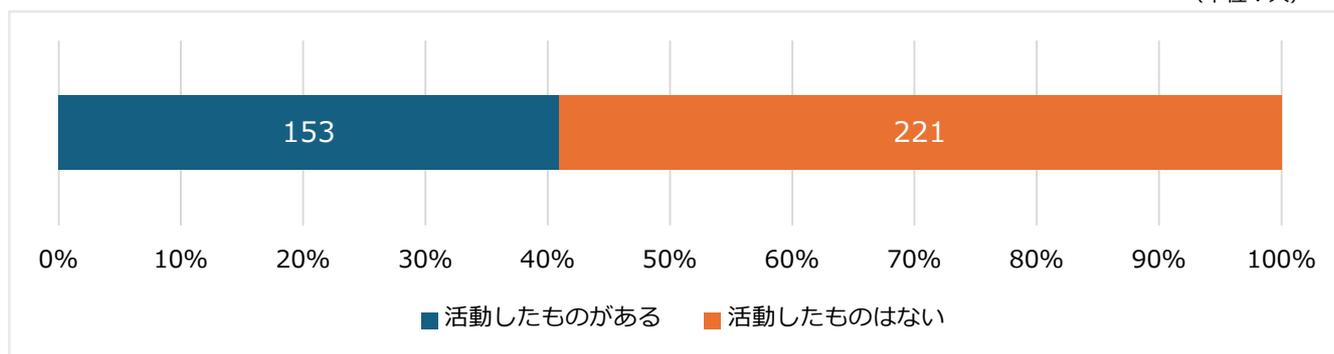
①-1：この1年間に、自ら取り組んだ文化芸術活動の有無 ※複数選択：いくつでも

<全世代合計>

この1年間に文化芸術について自ら取り組んだものについて聞いたところ、「活動したものがあ

る」と回答したのは153人と全体の約41%となった。

(単位：人)

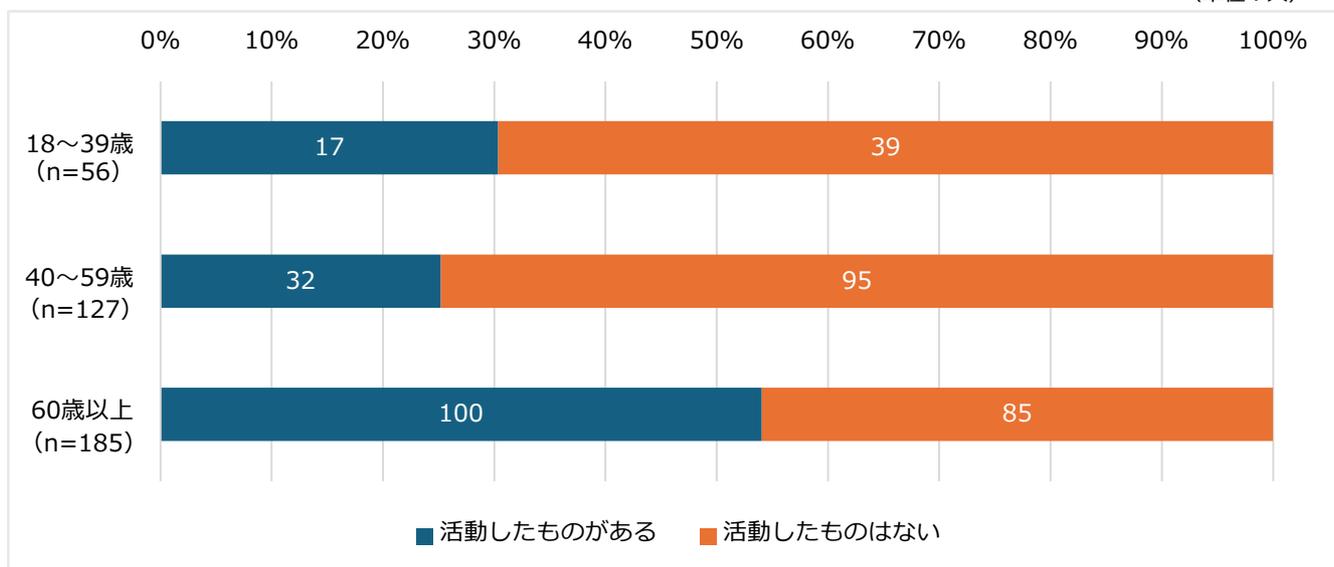


<世代別>

世代別に見ると、60歳以上の人は100人(54.1%)と半数以上が「活動したものがあ

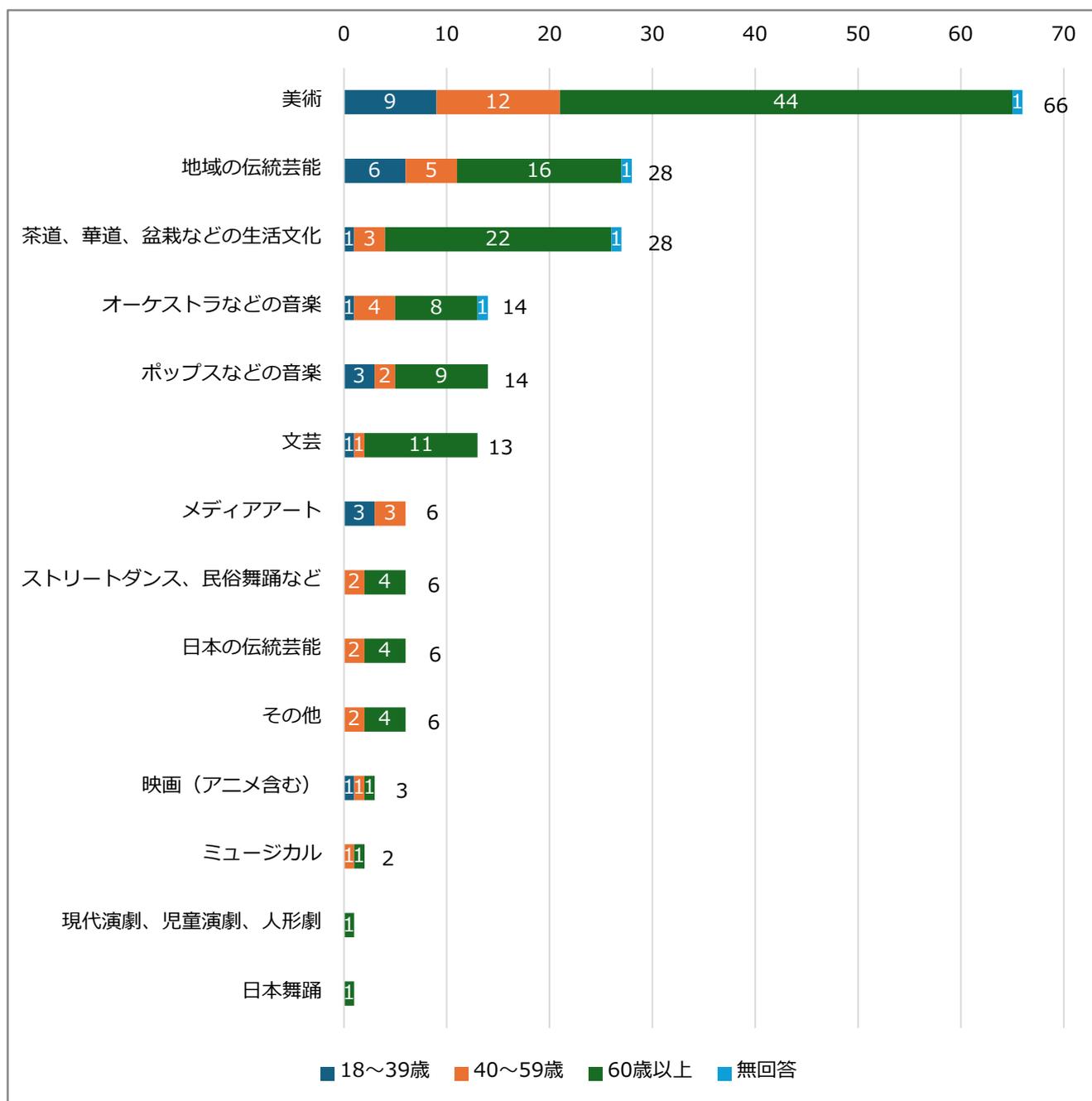
る」と回答したが、18~39歳では17人(30.4%)、40~59歳では32人(25.2%)となった。

(単位：人)



①-2：この1年間に、自ら取り組んだ文化芸術活動の分野

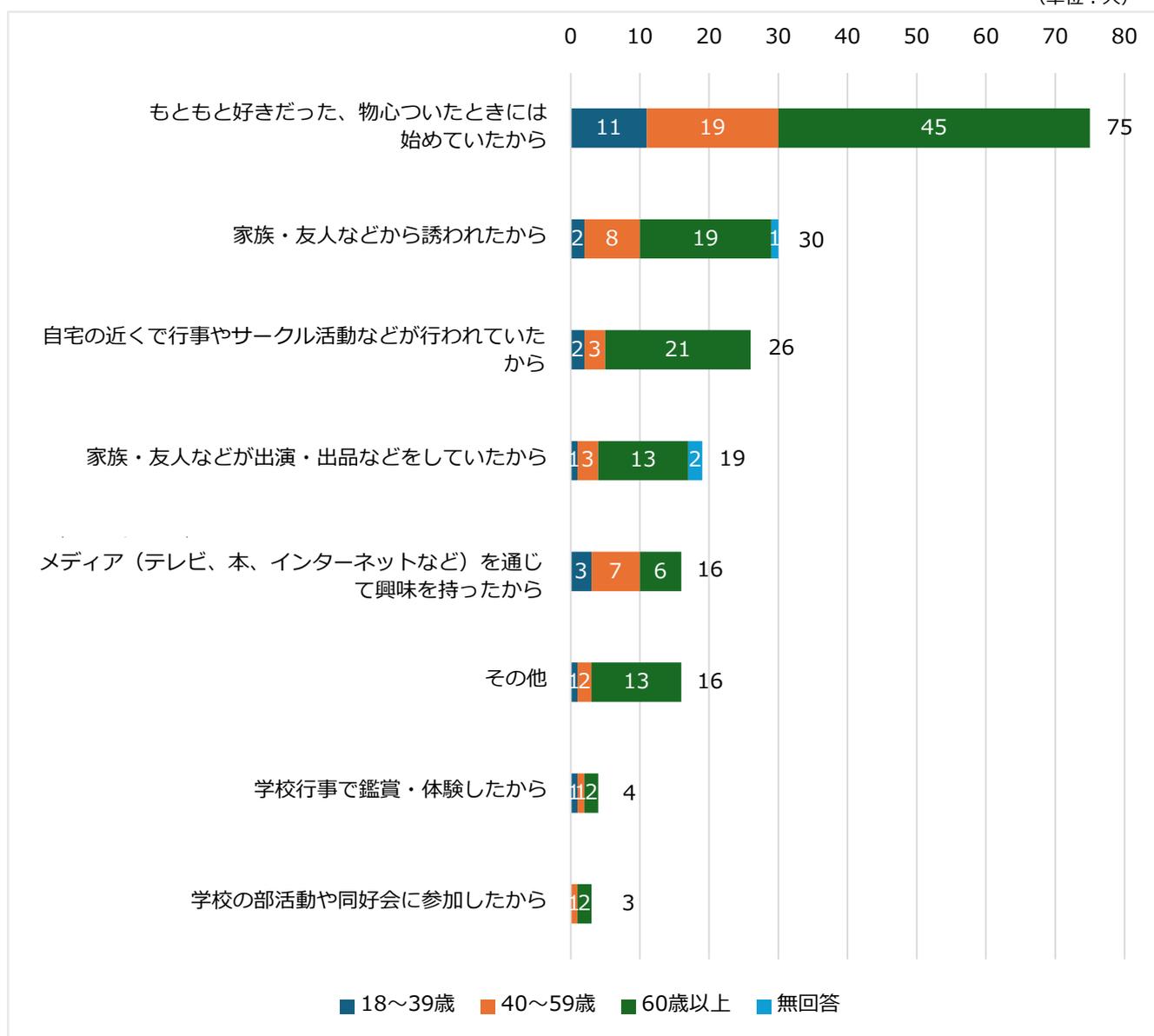
この1年間に文化芸術について自ら取り組んだものがあると回答した153人に取り組んだ分野について聞いたところ、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、建築、服飾、手芸、工作など）」が66人(43.1%)と最も多く、以下、「地域の伝統芸能（民謡、祭り、みこしの練り歩き、村歌舞伎、神楽、獅子舞、お囃子など）」28人（18.3%）と続いた。



②：文化芸術活動に自ら取り組んだきっかけ ※複数選択：いくつでも

この1年間に文化芸術について自ら取り組んだものがあると回答した153人にその理由を聞いたところ、「もともと好きだった、物心ついたときには始めていたから」が75人(49.0%)と最も多く、「家族・友人などから誘われたから」30人(19.6%)、「自宅の近くで行事やサークル活動などが行われていたから」26人(17.0%)と続いた。「その他」と回答した人の中では、仕事や資格取得(4件)、カルチャー教室等への参加(3件)などが回答された。

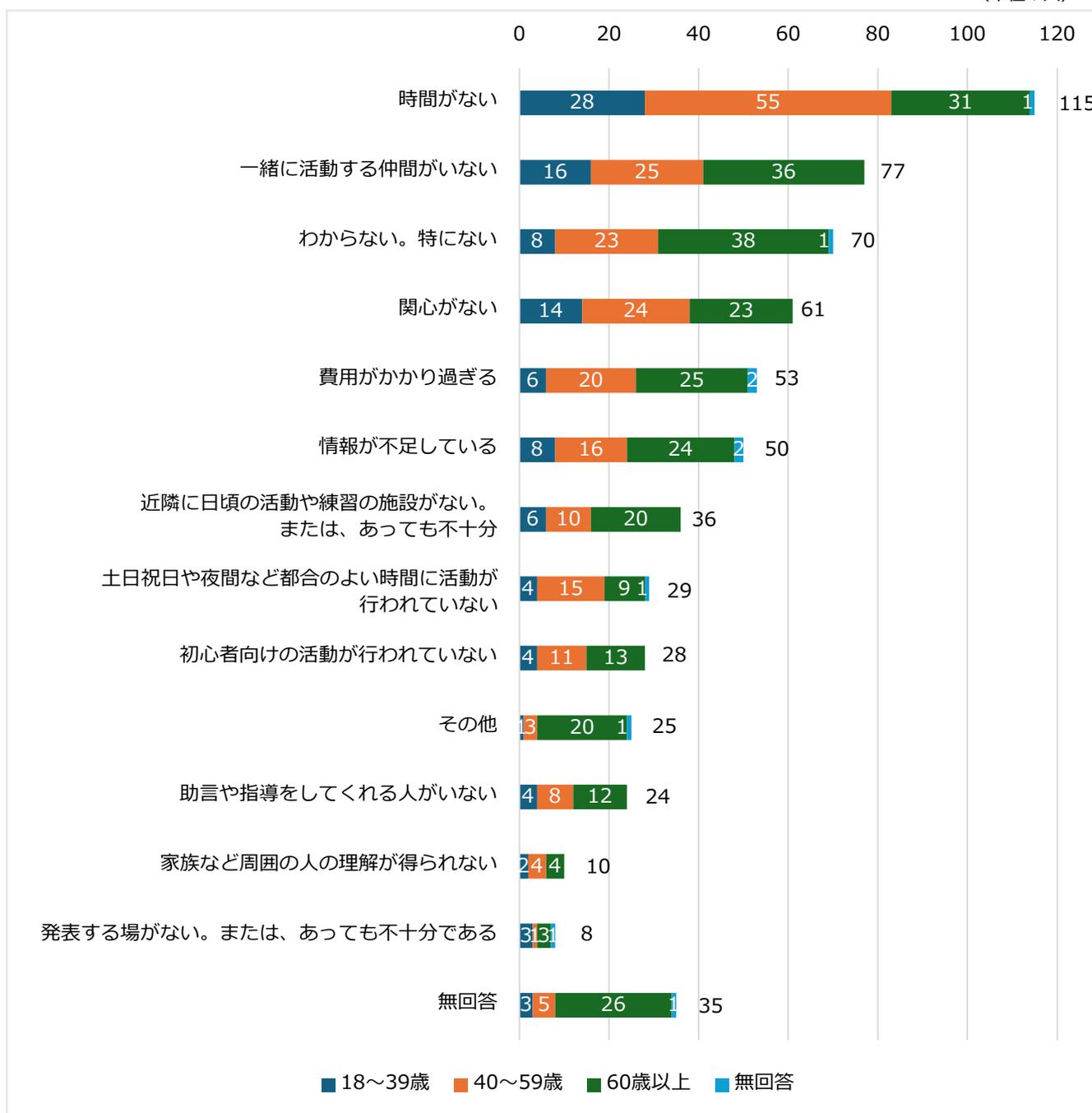
(単位：人)



③：文化芸術活動に取り組むうえで支障となっていること ※複数選択：いくつでも

自分で取り組むうえで困っていること、あるいは取り組まなかった理由について聞いたところ、「時間がない」が115人(30.7%)と最も多かった。次いで「一緒に活動する仲間がいない」77人(20.6%)、「わからない。特にない」70人(18.7%)となった。「その他」と回答した人の中では、健康を理由とするものが6件あった。

(単位：人)

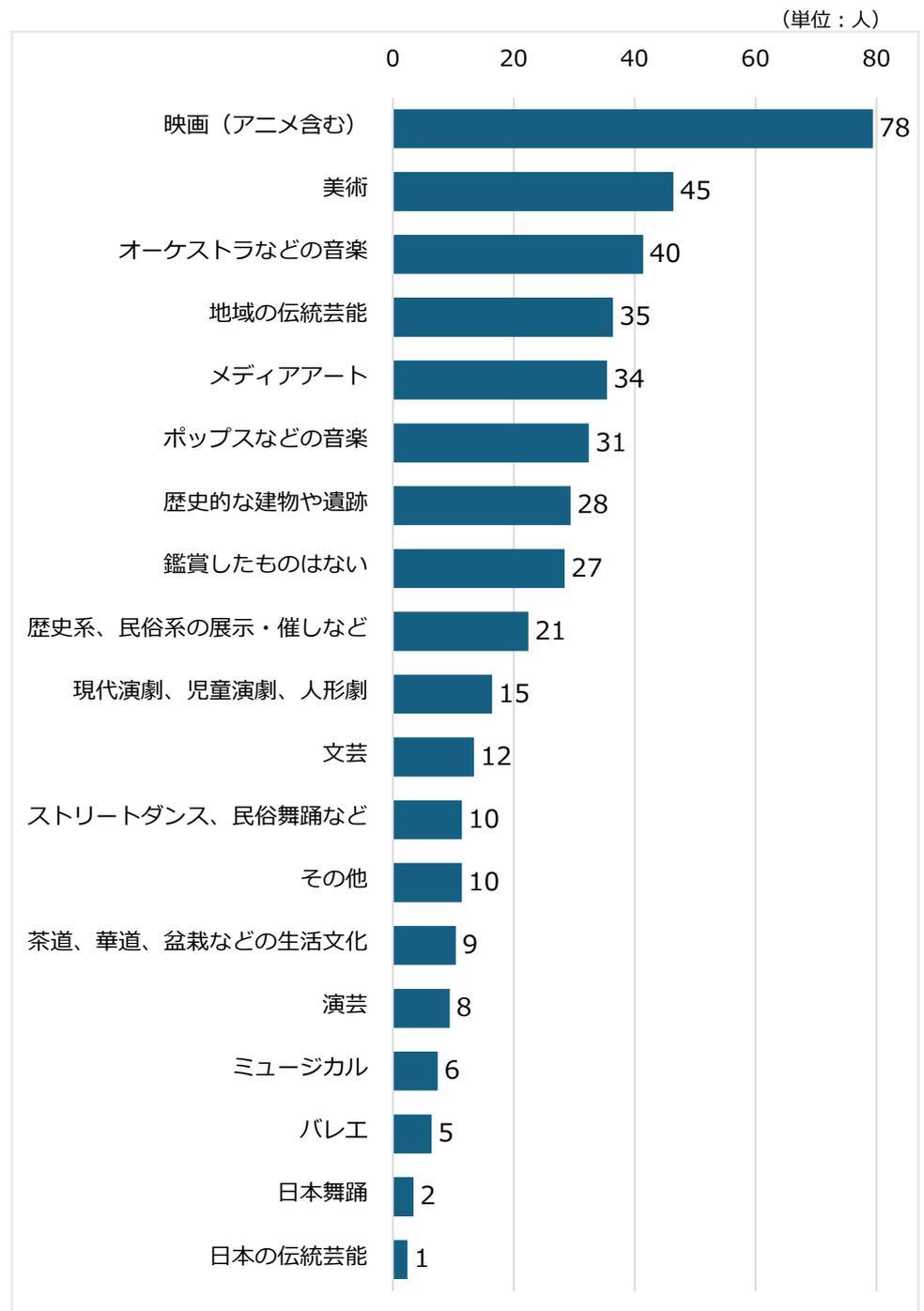


■ 3. こどもたちの文化芸術活動について

①：この1年間に、こどもや孫が見たり聞いたりした分野（公演・展覧会など）

※複数選択：いくつでも

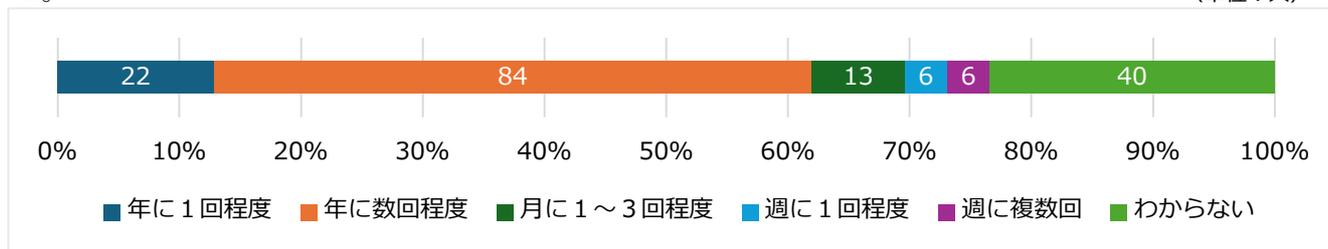
18歳未満のこどもや孫がいる168人を対象に、こどもが体験した文化芸術の分野について聞いたところ、「映画（アニメ含む）」が78人（46.4%）と最も多く、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、建築、服飾、手芸、工作など）」45人（26.8%）、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」40人（23.8%）と次いだ。



②：こどもたちの文化芸術の鑑賞頻度について

こどもや孫の文化芸術の鑑賞頻度を聞いたところ、「年に数回程度」が84人(49.1%)と最も多く、次いで「わからない」40人(23.4%)「年に1回程度」11人(12.9%)となった。

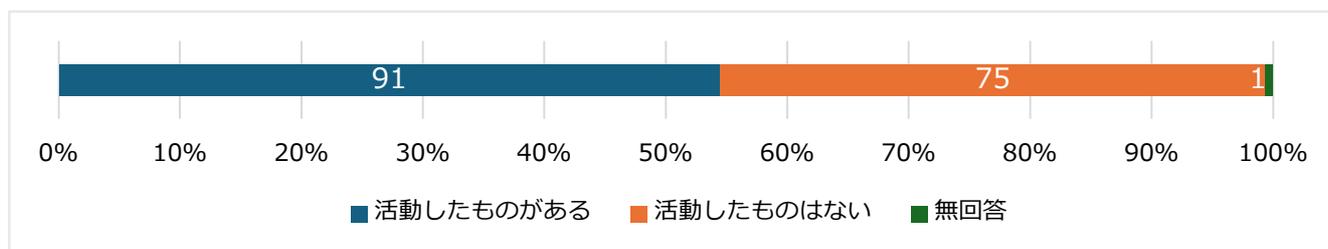
(単位：人)



③：こどもたちの文化芸術活動について ※複数選択：いくつでも

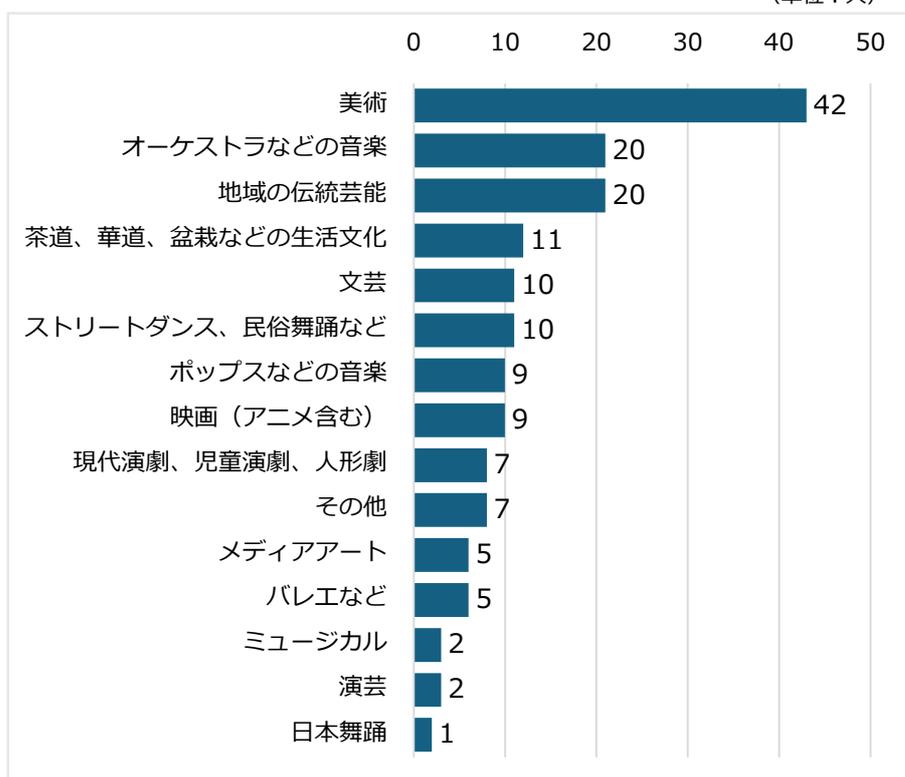
18歳未満のこどもや孫がいる168人を対象に、こどもや孫が文化芸術活動に自ら取り組んだものがあるか聞いたところ、「活動したものがある」と回答したのは91人(54.5%)となった。

(単位：人)



(単位：人)

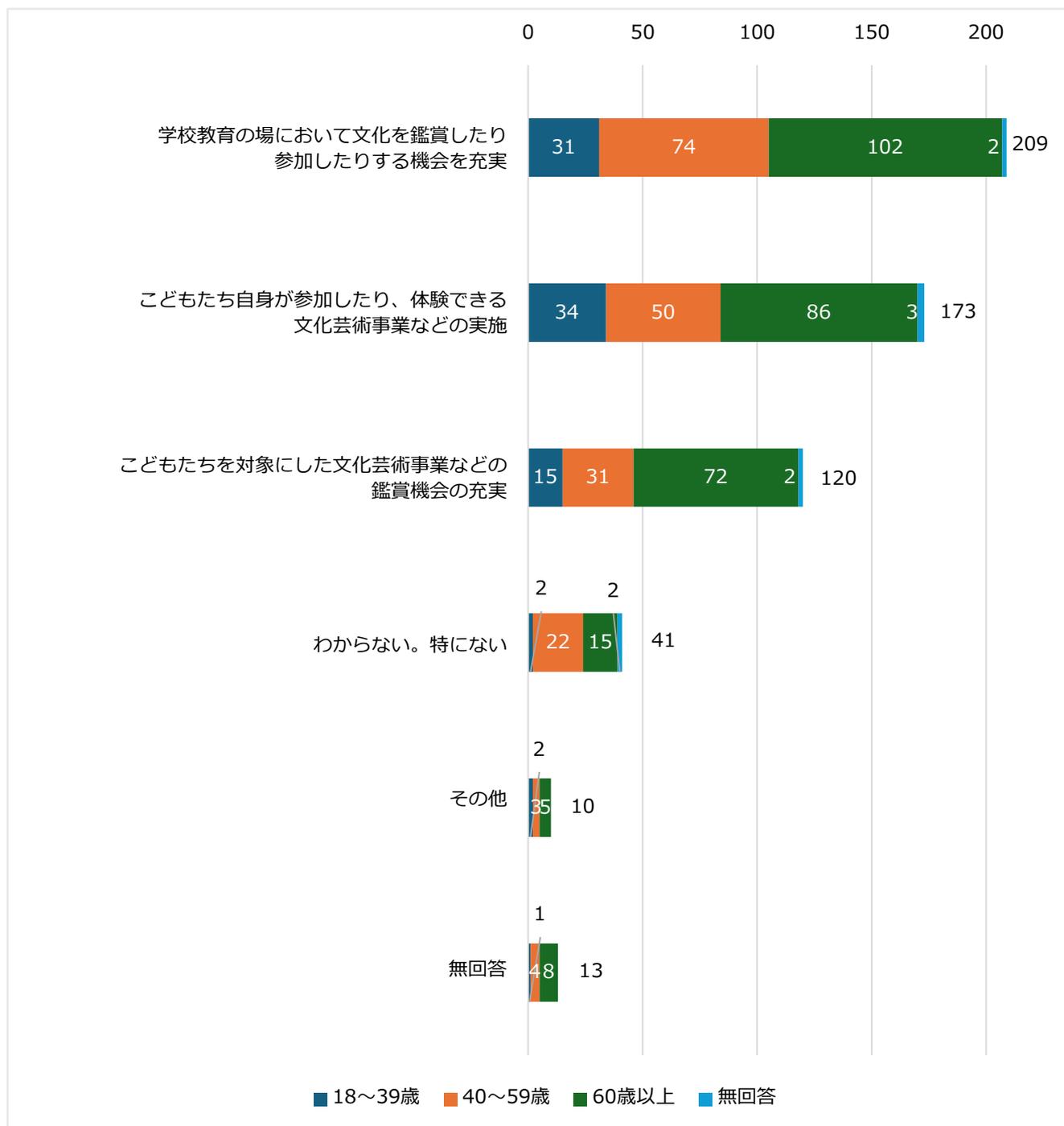
こどもや孫が文化芸術活動に自ら取り組んだことのある分野として、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、建築、服飾、手芸、工作など）」が42人(46.2%)と最も多く、次いで「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」、「地域の伝統芸能（民謡、祭り、みこしの練り歩き、村歌舞伎、神楽、獅子舞、お囃子など）」が20人(22.0%)となった。



④：こどもたちが文化に親しむ機会を充実するため、県や市町村が力を入れたらよいと思う取組みについて ※複数選択：2つまで

こどもたちが文化に親しむ機会を充実するため、県や市町村が力を入れたらよいと思う取組みについて聞いたところ、「学校教育の場において文化を鑑賞したり参加したりする機会を充実」が209人（55.9%）と最も多く、「こどもたち自身が参加したり、体験できる文化芸術事業などの実施」173人（46.3%）と次いだ。

(単位：人)

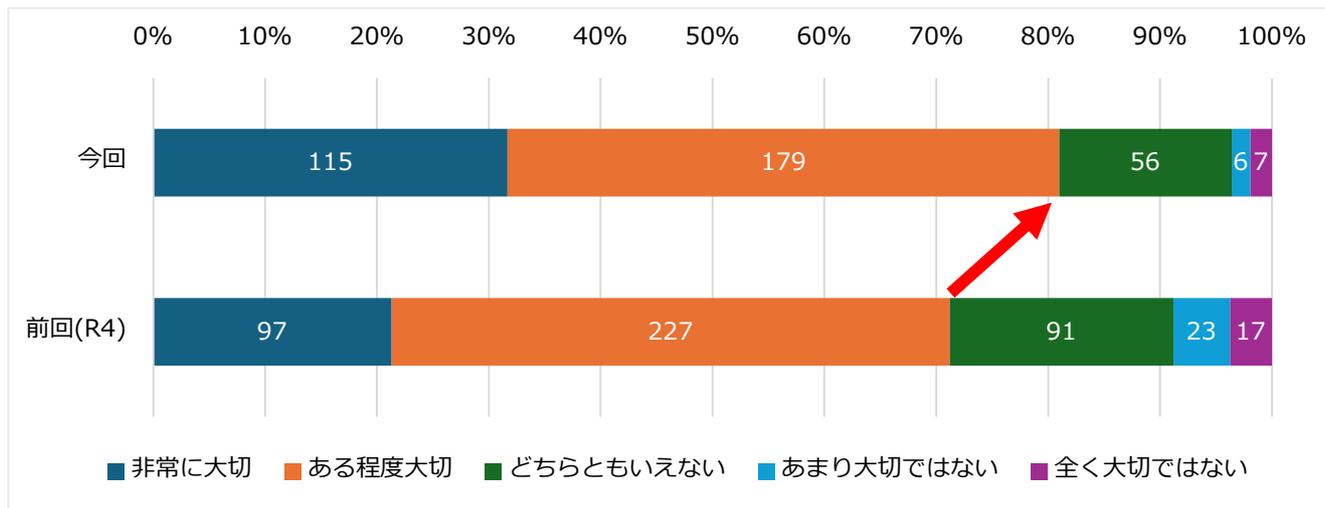


■ 4. ウェルビーイングについて

①：文化芸術を鑑賞することが、自らのウェルビーイング向上にとって大切だと思うか

「非常に大切」が115人(31.7%)、「ある程度大切」が179人(49.3%)であり、「大切」だと回答した人は294人(81.0%)となった。前回(R4)調査時では「大切」だと回答した人は71.2%であり、割合は増加している。

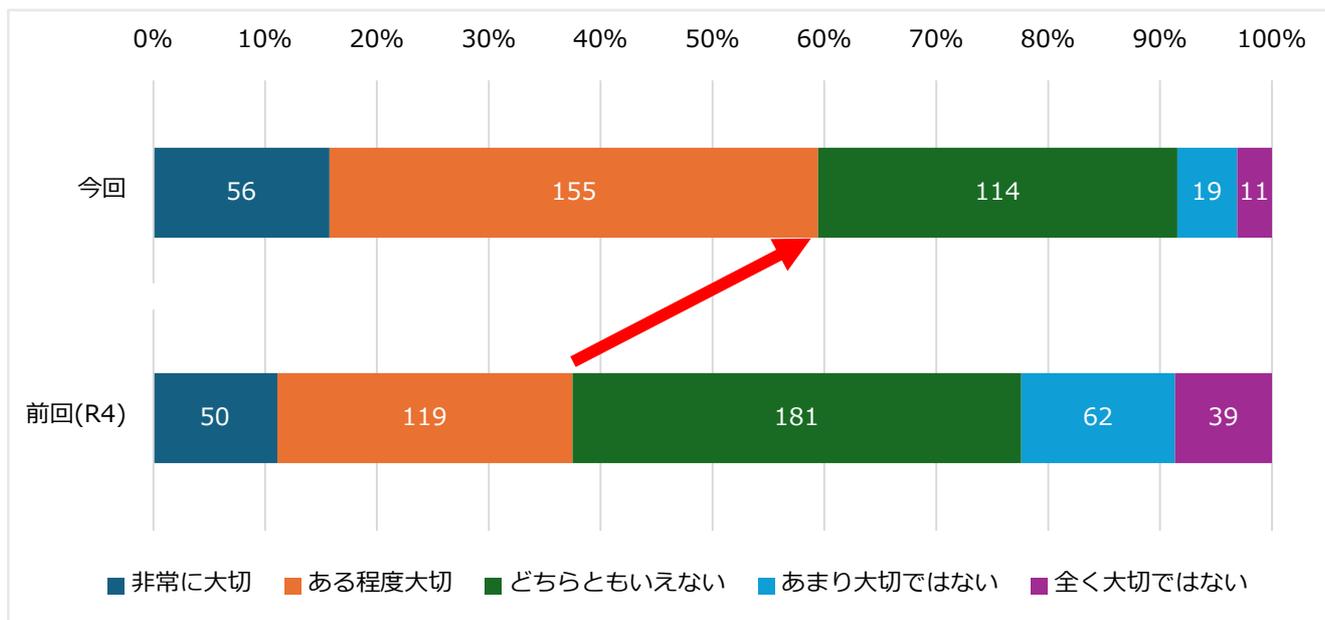
(単位：人)



②：文化芸術を自ら演じたり、作ったりすることが、自らのウェルビーイング向上にとって大切だと思うか

「非常に大切」が56人(15.8%)、「ある程度大切」が155人(43.7%)であり、「大切」だと回答した人は211人(59.4%)となった。前回(R4)調査時では「大切」だと回答した人は37.5%であり、割合は増加している。

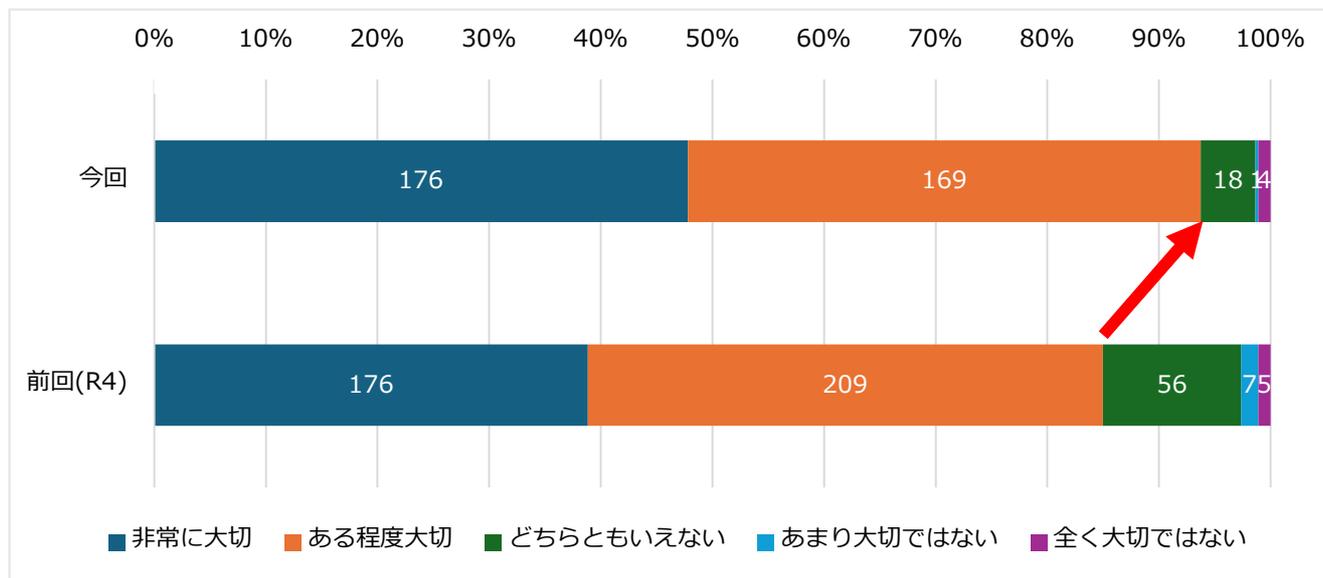
(単位：人)



③：子どもたちにとって、文化芸術を鑑賞することが大切だと思うか

「非常に大切」が176人（47.8%）、「ある程度大切」が169人（45.9%）となり、「大切」だと回答した人は345人（93.8%）となった。前回（R4）調査時では「大切」だと回答した人は85.0%であり、割合は増加している。

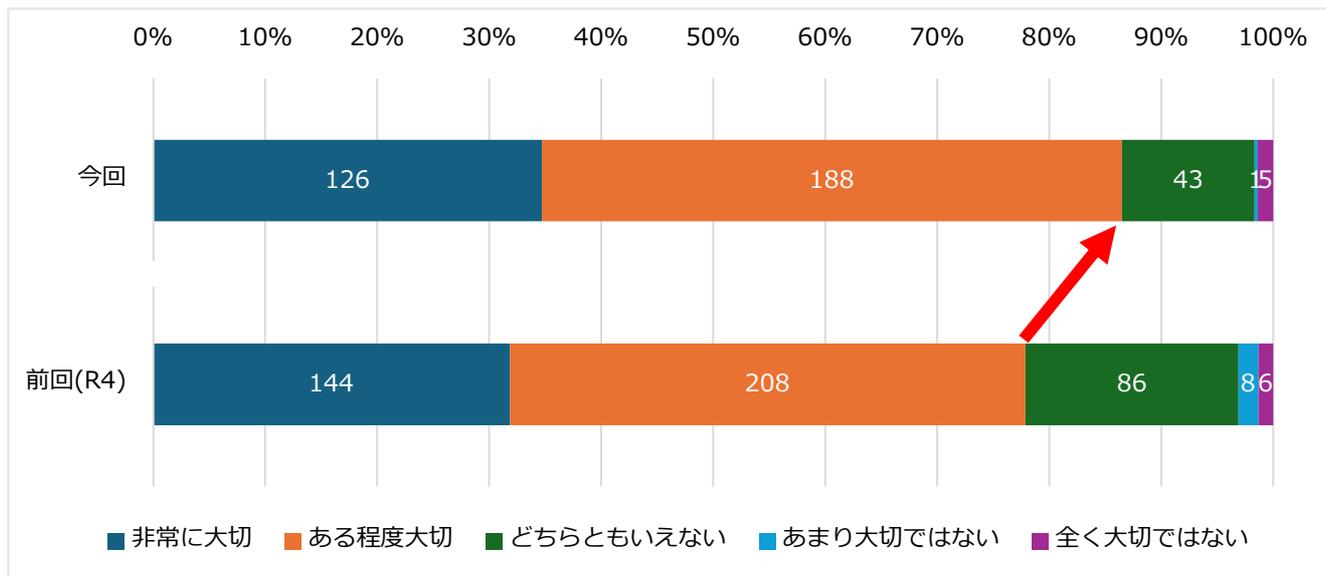
（単位：人）



④：子どもたちが文化芸術を自ら演じたり、作ったりすることが大切だと思うか

「非常に大切」が126人（34.7%）、「ある程度大切」が188人（51.8%）であり、「大切」だと回答した人は314人（86.5%）となった。前回（R4）調査時では「大切」だと回答した人は77.9%であり、割合は増加している。

（単位：人）

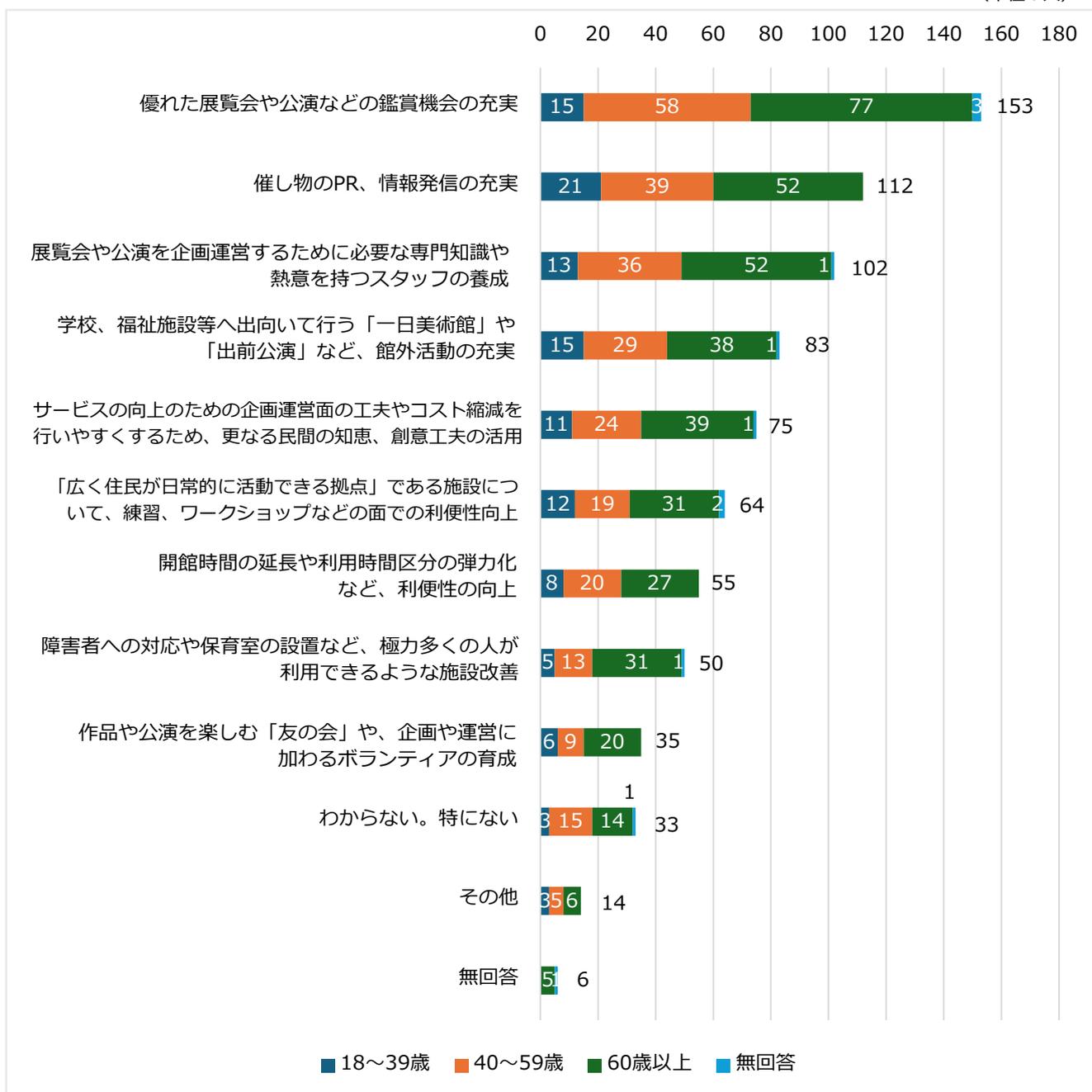


■ 5. 施策に対する要望

①：文化施設が、今後地域の文化活動を盛り上げる中心的な場所となるため、県や市町村が特に力を入れたらよいと思う取組み ※複数選択：3つまで

「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会の充実」が153人（40.9%）と最も多く、「催し物のPR、情報発信の充実」112人（29.9%）、「展覧会や公演を企画運営するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフの養成」102人（27.3%）となった。

（単位：人）

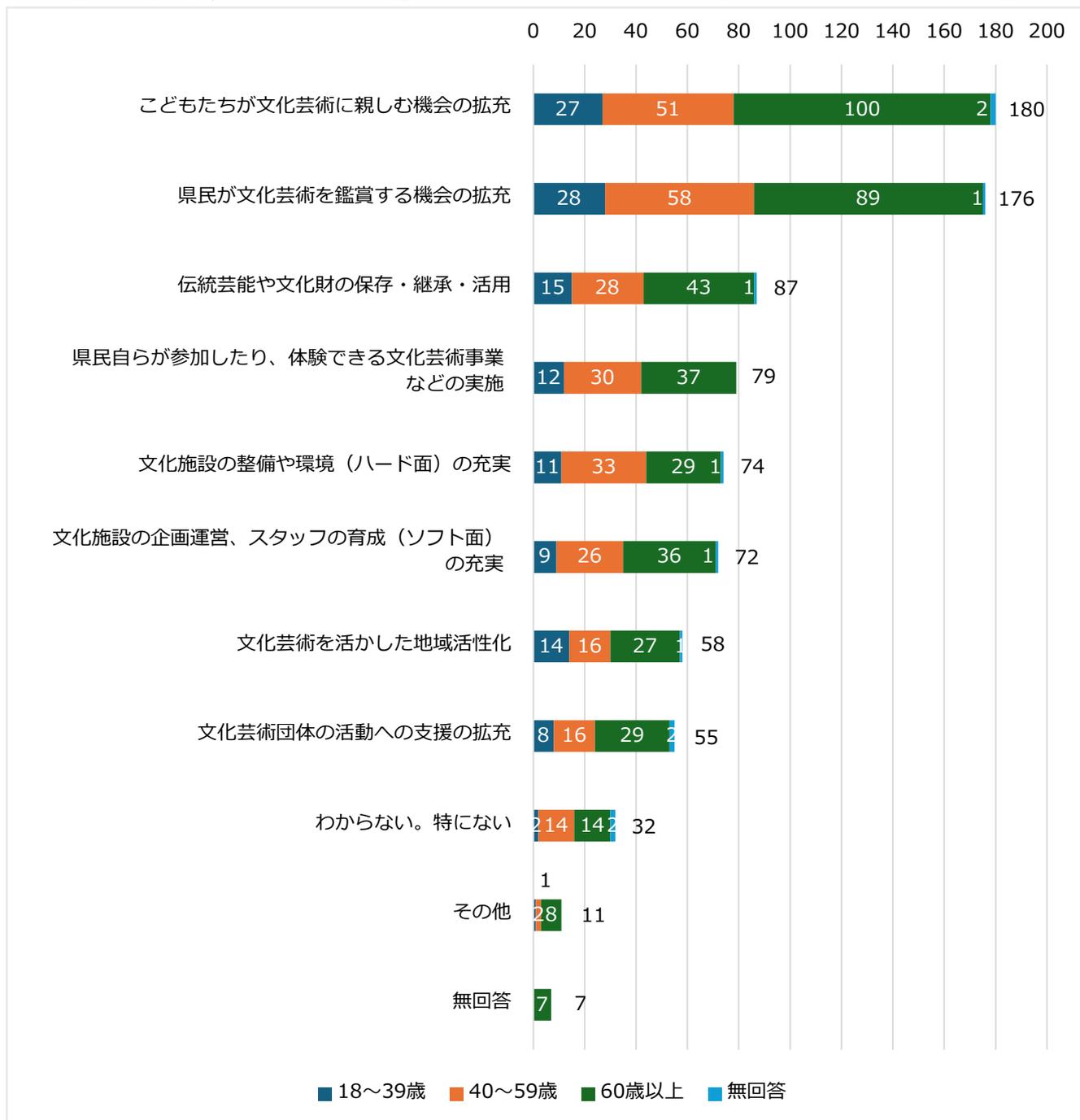


②：10年後に「誰もが文化に親しみ、関わることにより、心の豊かさを実感している」
姿を実現するために、県や市町村が特に力を入れたらよいと思う取組み

※複数選択：3つまで

「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の拡充」が180人（48.1%）と最も多く、「県民が文化芸術を鑑賞する機会の拡充」176人（47.1%）と次いだ。

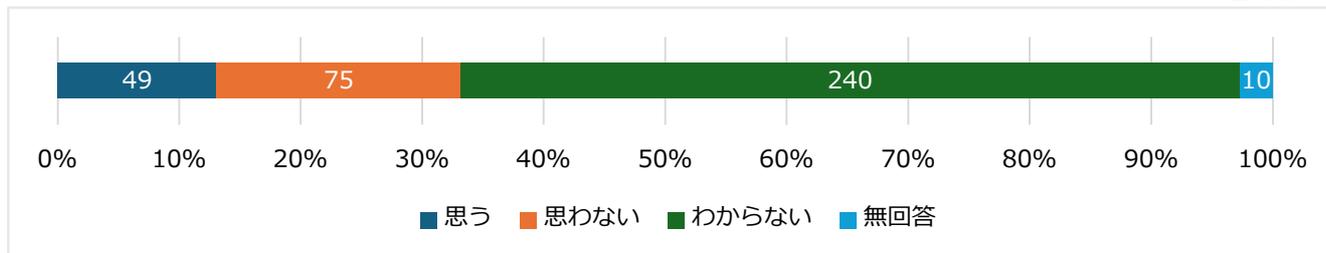
（単位：人）



■ 6. 障害者の文化芸術について

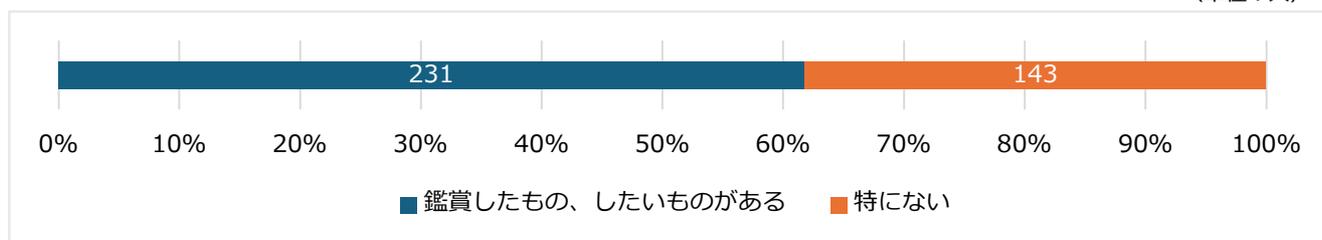
- ①：障害の有無に関わらず誰でも文化芸術活動に参加できる機会は十分だと思うか
 「思う」と回答したのは49人（13.1%）、「分からない」と回答した人は240人（64.2%）と6割を超えた。

（単位：人）



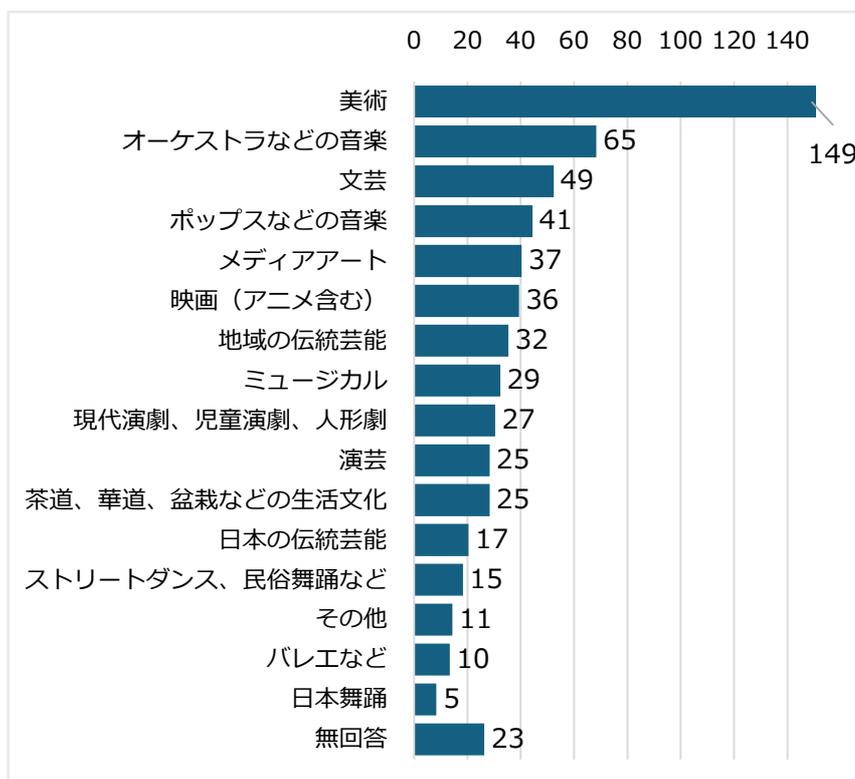
- ②：障害のある方による文化芸術活動（公演や展覧会など）について、鑑賞したもの、今後鑑賞してみたいものについて ※複数選択：いくつでも

（単位：人）



（単位：人）

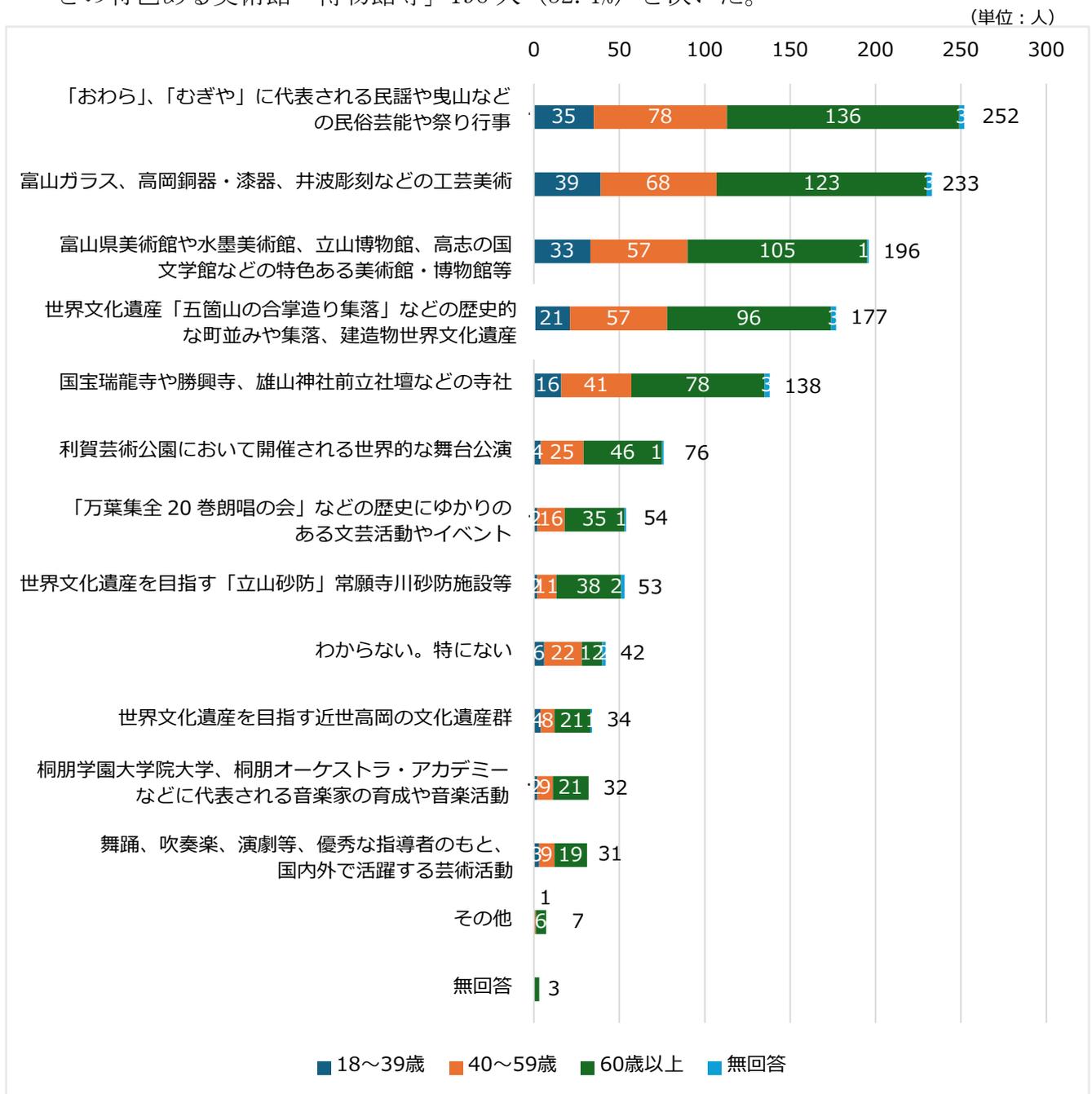
「鑑賞したいもの、したいものがある」と回答したのは231人（61.8%）と半数を超え、その中では「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真、デザイン、建築、服飾、手芸、工作など）」が149人（64.5%）と最も多く、「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」65人（28.1%）が次いだ。



■ 7. 文化芸術活動への評価・誇れる文化資源

①：全国的にまたは国際的に誇れる県内の「文化芸術」、「文化芸術活動」及び「文化財」と考えるもの ※複数選択：いくつでも

「おわら」、「むぎや」に代表される民謡や曳山などの民俗芸能や祭り行事」252人（67.4%）「富山ガラス、高岡銅器・漆器、井波彫刻などの工芸美術」233人（62.3%）、と回答された方が多く、「富山県美術館や水墨美術館、立山博物館、高志の国文学館などの特色ある美術館・博物館等」196人（52.4%）と次いだ。



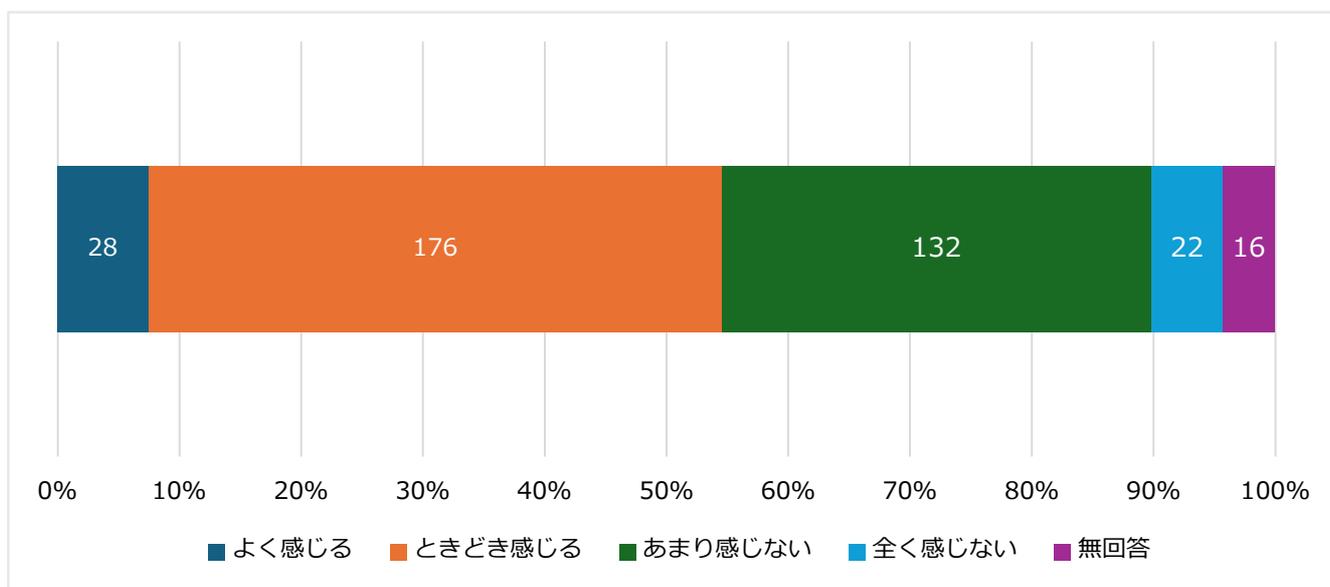
②：富山県の文化芸術の魅力が、県や市町村の取組みに活かされていると感じるか。

<全世代合計>

「よく感じる」と回答した方は28人(7.5%)、「ときどき感じる」と回答した人は176人(47.1%)と、「感じる」と回答した方は204人(54.5%)となった。

「感じる場面」としては、メディア等で紹介されているとき(16件)という回答が多かった

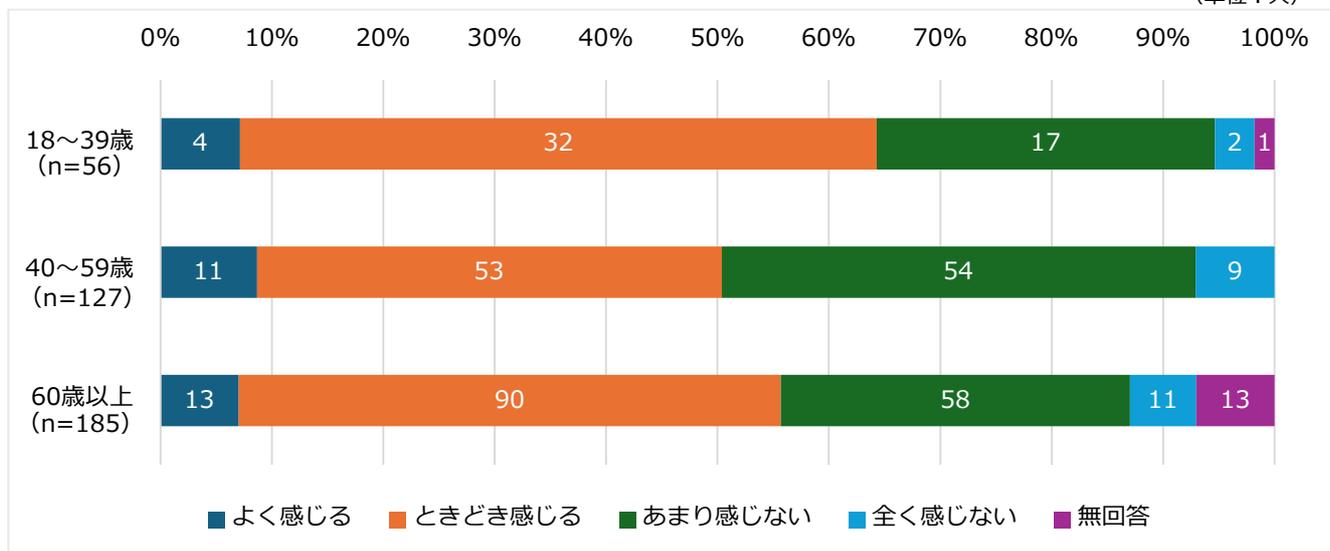
(単位：人)



<世代別>

世代別に見ると、「感じる」と回答した人は18～39歳では36人(64.3%)、60歳以上では103人(55.7%)と全世代合計での割合より高くなった。一方、40～59歳では64人(50.4%)と、他世代より「感じる」と回答した人の割合は低かった。

(単位：人)



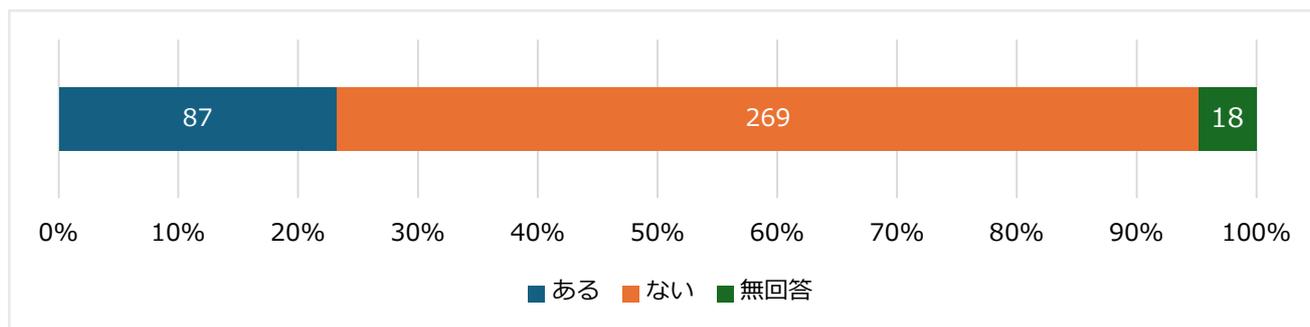
■ 8. 地域の民俗芸能・祭礼行事

① : 民謡や曳山など、あなたの住んでいる地域の民俗芸能、祭礼行事を最近自分で取り組んだり、参加したりしたことがあるか

<全世代合計>

「参加したことがある」と回答したのは87人（23.3%）となった。

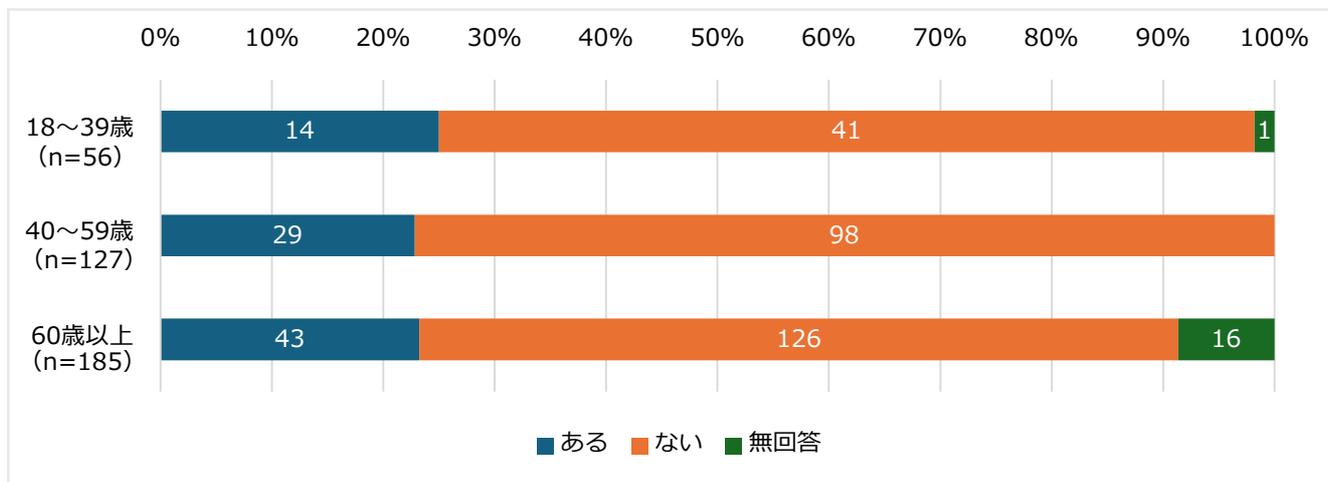
(単位:人)



<世代別>

世代別に見ても、回答の傾向は全世代合計と同様だった。

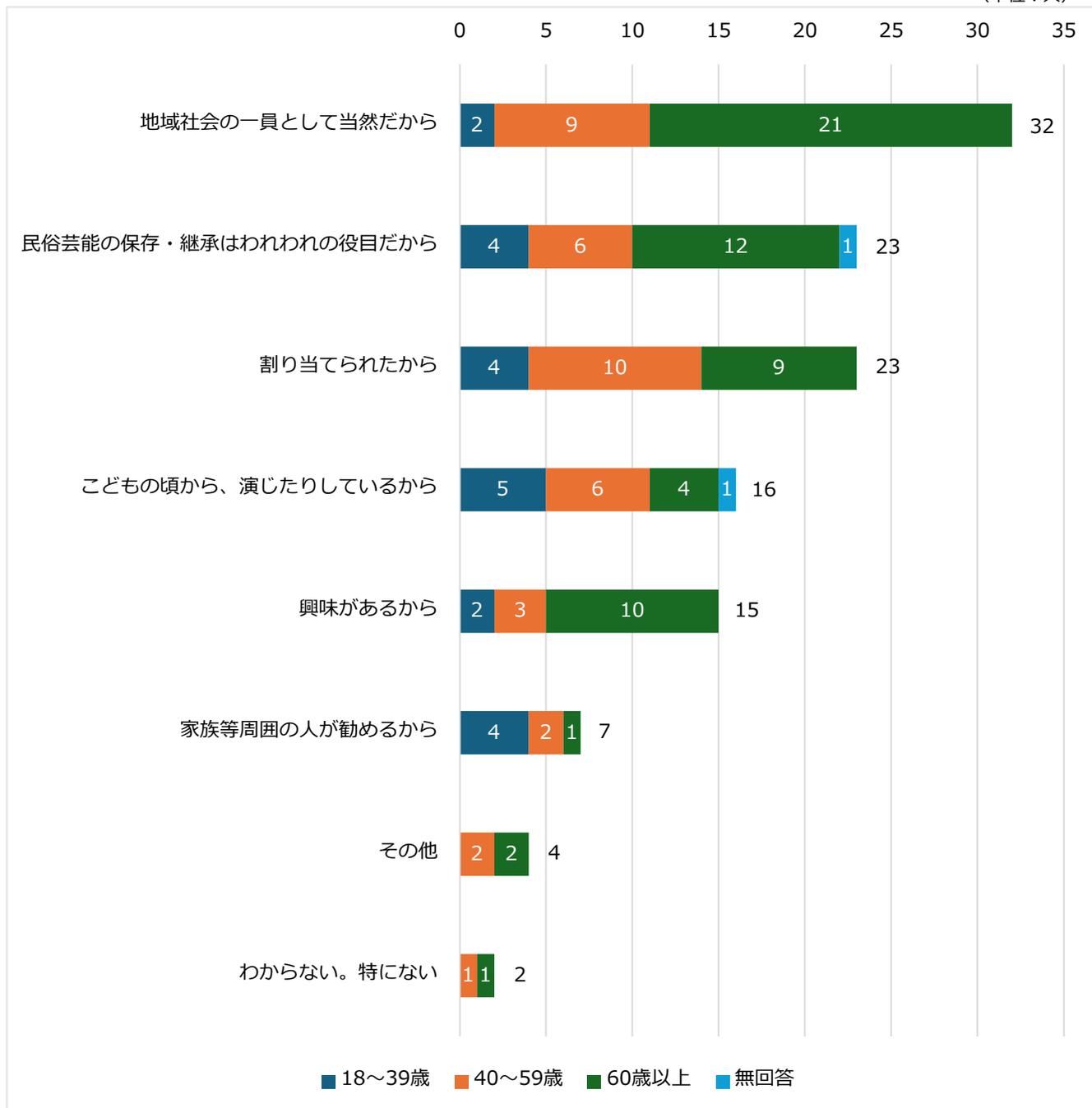
(単位:人)



②：地域の民俗芸能・祭礼行事に取り組んだり、参加した理由

地域の民俗芸能、祭礼行事に参加したことがあると回答した87名を対象に参加理由を聞いたところ、「地域社会の一員として当然だから」32人（36.8%）と回答された方が多く、「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」、「割り当てられたから」が23人（26.4%）となった。

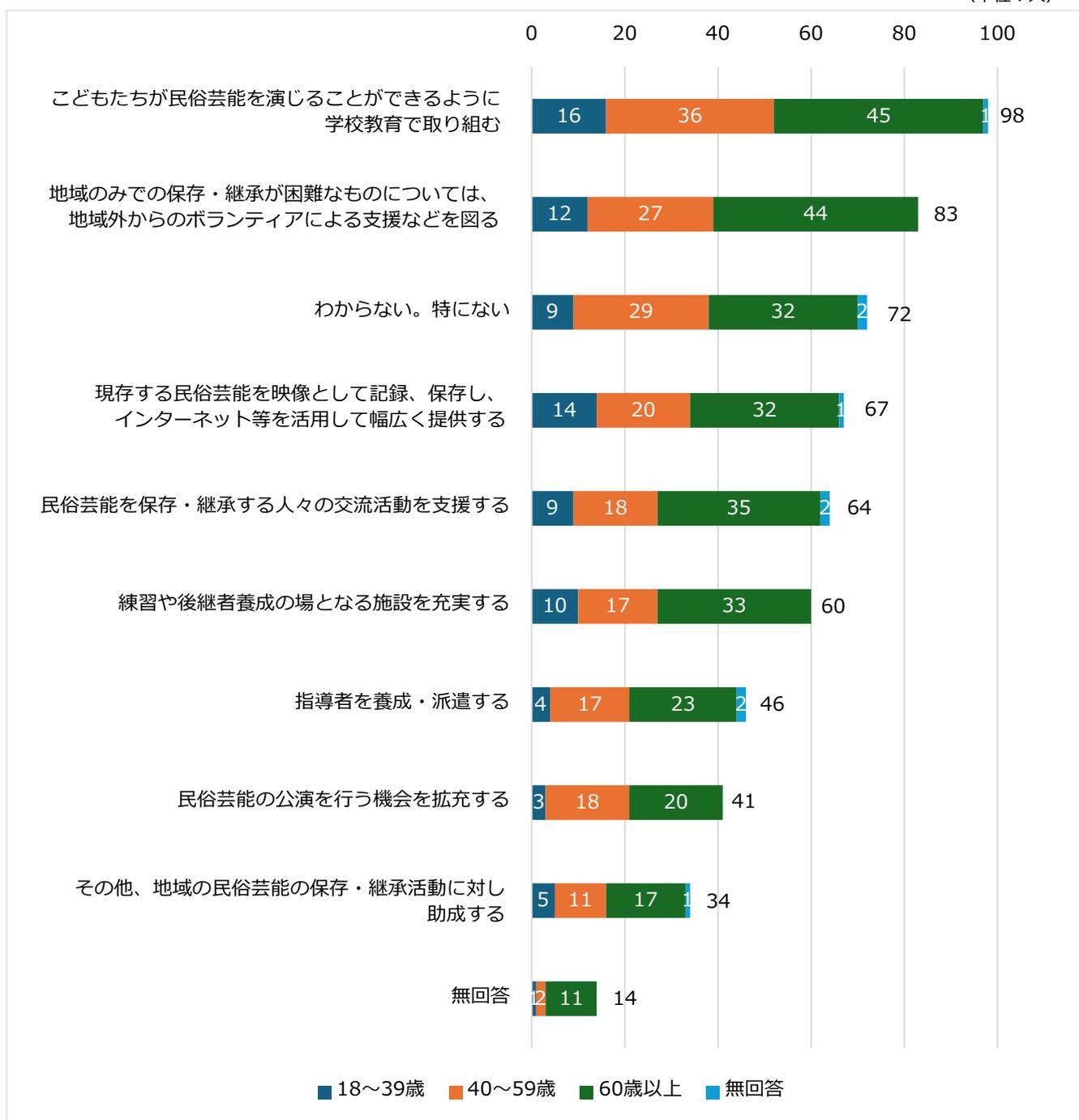
(単位：人)



③：地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承に関して、今後、県や市町村は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか ※複数選択：2つまで

「こどもたちが民俗芸能を演じることができるように学校教育で取り組む」と回答した人が98人（26.2%）と最も多く、「地域のみでの保存・継承が困難なものについては、地域外からのボランティアによる支援などを図る」83人（22.2%）、「わからない、特にない」72人（19.3%）と次いだ。

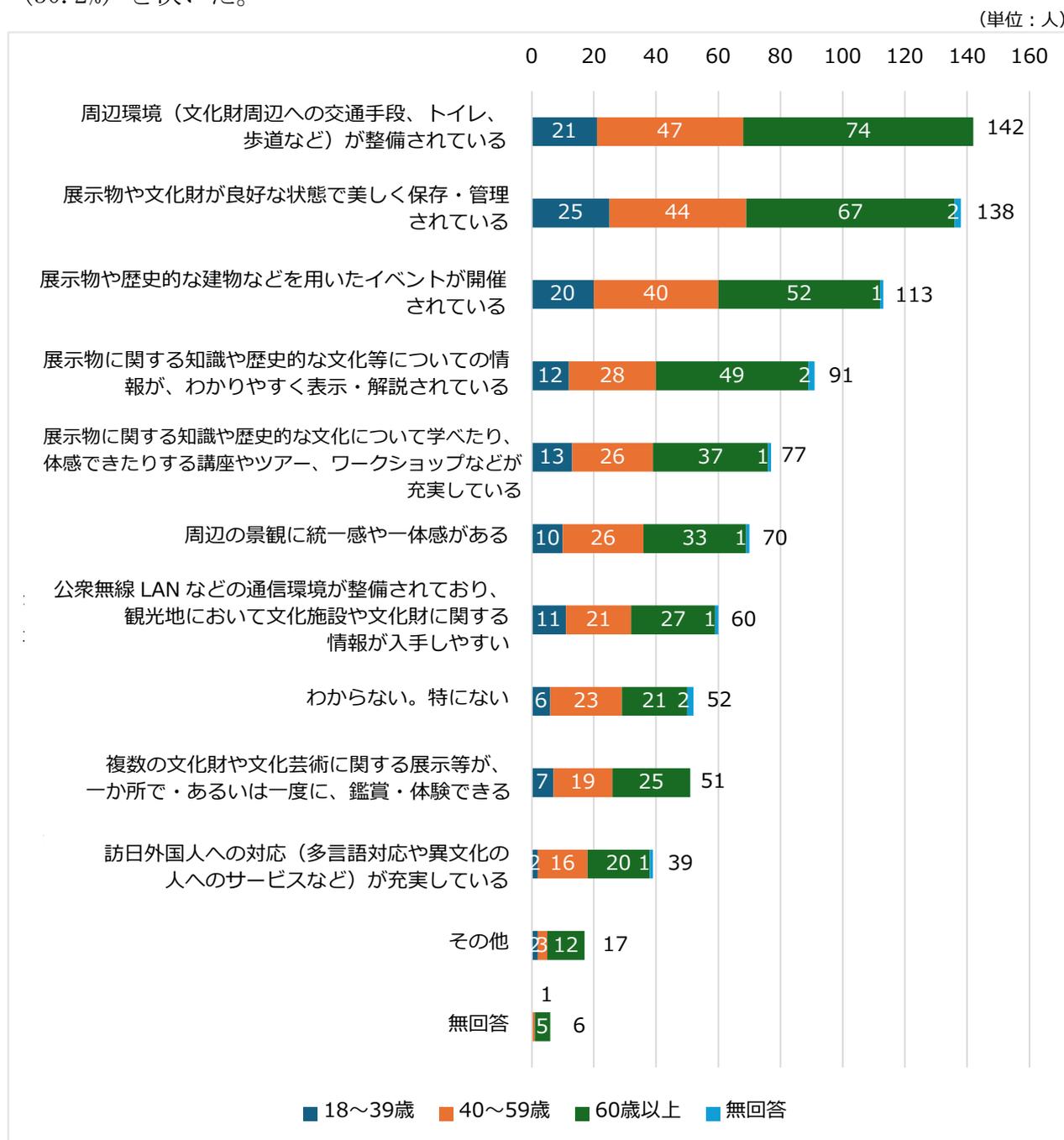
（単位：人）



■ 9. 文化観光について

①：富山県の美術館や博物館などの文化施設や、地域の祭りや伝統行事、歴史的な建造物などの文化財を『観光の資源』として魅力あるものにしていくためにはどのようなことが重要だと思うか。 ※複数選択：3つまで

「周辺環境（文化財周辺への交通手段、トイレ、歩道など）が整備されている」142人（38.0%）、「展示物や文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている」138人（36.9%）の回答が多く、「展示物や歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている」113人（30.2%）と次いだ。



文化芸術活動に関するアンケート調査結果

調査対象 県内の文化芸術団体 221 団体
 調査期間 令和8年1月末から2月中旬まで
 回答数 146 団体（回収率：66.1%）

1 文化芸術活動における現在の課題 ※複数選択：3つまで

選択肢	件数
新規加入者が少ない	106
事業・活動資金が足りない	71
団体の情報発信ができない、うまく伝わらない	39
発表や展示をする場所がない・少ない	32
団体の運営体制に不安がある	17
練習や稽古をする場所がない・少ない	16
活動のための時間がとれない	6
特に課題はない	10

（その他の意見）

意見	件数
高齢化、会員減少	7
集客	2
練習や稽古をする場所の地域の偏りが大きい	2
ジャンルや規模に応じた専門性の高い施設が少ない	1
ホールや稽古場の使用制限が多い	1
作品を展示・販売する場所がない	1
備品（楽器など）の保管場所の確保	1
地域にレベルの高い指導者が少ない	1
子どもや現役世代に自由時間が少なく、文化芸術を広げられない	1
文化芸術団体が似通っており、多様性が十分でない	1
規模の小さな文化芸術団体が消滅する危険性	1
海外に発信する機会がない	1
参加者を増やし黒字にすること	1

2 課題に対する現在の取組み ※自由記述

意見	件数
SNS やチラシ、口コミ等による情報発信	47
若手等の勧誘	15
県内各地でのイベント、ワークショップの開催（参加）	14
経費削減	10
企業等へ協賛金を依頼	9
会費の値上げ（定期徴収＋不足分を追加徴収 も含む）	8
初心者向けの活動を実施	8
会員の技術向上	6
定期的な活動の継続	5

文化芸術活動の魅力発信	4
全国の文化芸術団体等との相互交流	3
現在の活動内容の充実化	3
補助金の利用	2
地域のお店や文化施設等との連携	2
他団体等への協力要請	2
喫茶店や個人宅など、交渉による会場確保	1
クラウドファンディング	1
県外へのアピール	1

3 課題解決のために必要な取組み ※複数選択：3つまで

選択肢	件数
文化芸術活動への助成金の情報提供や申請支援	60
子どもたちが文化芸術に親しむ機会の拡充	54
県民が文化芸術を鑑賞する機会の拡充	43
文化施設の整備や環境（ハード面）の拡充	37
文化芸術を活かした地域活性化	32
県民自らが参加・体験できる文化芸術事業の実施	28
文化施設の企画運営、スタッフの育成（ソフト面）の充実	20
イベントや祭りに協力してくれる人材とのマッチング	18
運営や後継者不足など課題解決に向けた相談窓口の設置	14
クラウドファンディングなど活動資金獲得ノウハウの提供	10
伝統芸能や文化財の保存・継承・活用	10
特にない	10

（その他の意見）

意見	件数
会場使用料の値下げ	2
文化施設の駐車場の拡充	2
文化芸術への投資に対する理解	1
継続的な指導者招へいのための資金援助	1
認知度を高める活動の実施	1
既存事業の見直し、改革	1
情報発信の強化	1

4 団体として今後取り組みたいことなど ※自由記述

意見	件数
人材育成、技術向上	13
情報発信の強化（それに向けた資金繰り）	11
文化芸術に触れてもらう、興味を持ってもらうための活動	8
認知度を高める活動	6
財源確保	4
ワークショップの充実（小中校生向け含む）	4
広く一般にアピールできる機会の活用	4

文化芸術の理解者・支援者の増加	3
分野間や国際的団体等の他団体との文化交流	3
人材確保	2
興味のある人への窓口づくり	2
親子で取り組める場の提供	2
県外への発信	2
地域貢献	1
高齢化社会の生きがいづくり	1
文化芸術を通じた「人の輪」づくり	1
全国規模イベントの誘致	1

(その他 県への要望など)

意見	件数
補助金や助成金を活用したい	2
芸術文化の増進に積極的に関わってほしい	1
各分野に特化した文化施設の整備	1
気軽に足を運ぶことのできる施設の整備	1
文化施設の利便性の向上	1
富山県の持つ空き施設等を積極的に使わせてほしい	1
公民館や学校等から協力が得られる体制を整えてほしい	1
地域の伝統文化を担う青少年の育成に力を入れてほしい	1
学校教育に伝統芸能を取り入れてほしい	1
複数分野の組合せによる発表の場の確保	1
県主催イベントの増加	1
団体間での運営ノウハウの共有	1
人との繋がりがないとイベントを知ることができない	1
中学校・高校の部活動で指導する機会があるとよい	1

文化芸術活動への支援等に関するアンケート調査結果

調査対象 富山県内に事業所を有する事業者 110社
 調査期間 令和8年1月末から2月中旬まで
 回答数 48社（回収率：43.6%）

1 現在行っている文化芸術活動や行事に対する支援 ※複数選択：いくつでも

選択肢	件数
資金提供（寄付、協賛など）	37
人的資源の提供（参加、参画）	13
支援を行っていない	10
美術品や資料等の公開	6
所有する文化施設・設備の開放	6

2-1 支援を行っている場合の理由（回答数38社） ※複数選択：いくつでも

選択肢	件数
地域・地元の活性化への貢献	34
企業イメージの向上・PR	27
地域や取引先との関係	27

2-2 支援を行っていない場合の理由（回答数9社） ※複数選択：いくつでも

選択肢	件数
支援するためのリソースがない	5
支援するメリットを感じない	2
必要性を感じていない	2
活動内容を把握していない	1
支援に関する知識・情報を得ていない	1
よくわからない	1

3 文化芸術活動への支援を行うにあたっての課題 ※複数選択：いくつでも

選択肢	件数
広告協賛など支援した際のメリット	27
対象の行事・活動と企業の理念・事業の関係性	25
予算の捻出など資金面	24
人的資源の提供の制約	16
文化芸術活動への支援に関する情報不足	1
文化芸術活動への支援がよくわからない	1

4 文化芸術を振興するために、県に期待する役割や取組み ※複数選択：3つまで

選択肢	件数
文化芸術を活かした地域活性化	21
子どもたちが文化芸術に親しむ機会の拡充	19
伝統芸能や文化財の保存・継承・活用	17
県民が文化芸術を鑑賞する機会の拡充	15
文化施設の整備や環境（ハード面）の充実	13
県民自らが参加したり、体験できる文化芸術事業の実施	12
文化施設の企画運営、スタッフの育成（ソフト面）充実	8
文化芸術団体の活動への支援を拡充	7
わからない特にない	4
県内外に向けての文化芸術活動の情報発信	1

5 今後取り組みたい文化芸術活動への支援等 ※自由記述

意見	件数
ものづくりの魅力を広める活動への支援	1
地域に根差した文化芸術活動の活性化のための支援	1
金岡邸など薬業に係る活動への支援（将来の人材確保のため）	1
支援を検討するため文化芸術活動を紹介してほしい	1

文化行政に関する市町村アンケート調査結果

調査対象 県内15市町村
 調査期間 令和8年1月末から2月中旬まで
 回答数 15市町村（回収率：100%）

1-1 市町村の文化行政において、現在、力を入れている取組み（または今後、特に必要だと思う取組み） ※複数選択：3つまで

選択肢	件数
子どもたちが文化芸術に親しむ機会の拡充	14
伝統芸能や文化財の保存・継承・活用	8
文化芸術を活かした地域活性化	6
県民が文化芸術を鑑賞する機会の拡充	4
県民自らが参加したり、体験できる文化芸術事業の実施	4
文化施設の整備や環境（ハード面）の充実	4
文化施設の企画運営、スタッフの育成（ソフト面）の充実	4
文化芸術団体の活動への支援の拡充	1

1-2 上記の取組みに対する課題や取組方針 ※自由記述

〔課題〕

意見	件数
文化芸術活動への参加者の高齢化、若年層の減少	6
伝統芸能や地域の伝統行事の担い手不足	6
企画運営に携わるスタッフのスキル向上、専門知識・技術を備えた職員の確保	4
厳しい財政状況による予算確保の難しさ	4
文化芸術分野の多様化	3
イベント情報の告知や発信の難しさ、情報発信の不足	2
学校教育における、郷土学習への積極的な支援の必要性	1

〔取組方針〕

意見	件数
子どもに文化芸術に触れさせたいという親からの関心の高さを踏まえ、子どもを対象としたイベント等の推進	1
地域へ出張美術館や体験型展示による文化芸術に触れる機会の創出	1
デジタル技術を活用した展示による若者や子どもたちへの魅力発信	1
伝統芸能や無形文化財等のデジタル・アーカイブ化による後世への継承	1

2-1 市町村の文化施設についての課題 ※複数選択：3つまで

選択肢	件数
施設の老朽化への対応（修繕・維持補修、新たな施設の整備等）	12
稼働率の向上や利用者数・利用料金収入の増加に向けた対策	11
施設運営に係る人材の不足	5
指定管理者のノウハウの蓄積（支え手となる人材育成）	3
バリアフリー化に対応した施設整備	2
地域の団体や県民との関係の構築	2

2-2 上記の課題に対して現在行っている取組み

〔ハード面〕

意見	件数
施設の計画的な修繕や長寿命化	9
文化施設の再整備や集約の検討	2
文化施設の新設の是非に対する市民や関係者との対話	1

〔ソフト面〕

意見	件数
小学生向け文化体験プログラムの実施や小学校の課外授業での活用	2
文化芸術以外の用途（成人式や結婚式の前撮り等）での積極的な活用	1
施設運営への民間活力導入による財政負担の軽減	1
SNS等を活用した情報発信	1

3 今後、県に期待する役割や取組み ※自由記述

〔ハード面〕

意見	件数
新たな文化施設の設置	2
文化施設の修繕などを幅広く対象とする補助金等による支援	1

〔ソフト面〕

意見	件数
県内各地で継承される多様な文化芸術の県内外への魅力発信	1
アーティストへの活動支援の拡充	1
人材確保や利用者数・利用料増加の取組事例の紹介	1
県内全域での文化芸術事業の実施（現在は、富山市内や県立文化ホール（高岡・新川）での開催がほとんどであるため）	1